

*Annual Report 2011*

年 報  
ひたちの

平成 23 年度

社団法人 茨城県理学療法士会

年 報  
ひたちの

平成 23 年度

社団法人 茨城県理学療法士会

# 目次

1. 平成23年度総括報告	1
2. 表彰	5
3. 平成23年度活動報告	7
5月 第35・36回定期総会・表彰式	7
新人才リエンテーション・第1回研修会	8
第2回研修会・第1回特別研修会	9
第2回特別研修会	10
茨城県医療介護連携システム推進協議会設立総会	11
6月 第3回研修会・第4回研修会	12
第5回研修会	13
新人歓迎会	13
理学療法進路指導説明会	14
IBS 茨城放送ラジオ出演	15
7月 第47回いばらき介護の祭典	17
「まちの保健室」「介護予防キャラバン」共同公益事業	17
第1回市民公開講座	19
第93回全国高校野球選手権茨城大会メディカルサポート	19
8月 「教育と医療」協働支援研修会	21
9月 理学療法士講習会<基本編>の開催	22
10月 第6回研修会・第7回研修会	23
介護予防キャラバン第27回常総市「ふくし祭り」	24
第24回いばらき医療福祉研究集会	25
11月 「介護の日」イベントにおけるパネル展示	26
関東甲信越ブロック臨床実習指導者研修会	26
第3回茨城県理学療法士連盟通常総会・研修会	27
第15回茨城県理学療法士学会	29
忘年会	34

12月	茨城県訪問リハビリテーション実務者研修会	35
1月	理学療法士講習会<応用編>の開催	36
	リハ3士会役員合同懇親会	36
	賛助会員等との意見交換会	37
	茨城県理学療法士関連三団体合同研修会	38
2月	第2回市民公開講座	39
	茨城県介護予防フォーラム	40
3月	「まちの保健室」「介護予防キャラバン」共同公益事業	41
	第37回定期総会	42
	第8・9回研修会	43
	特別講習会	44
	その他の協力事業	45
	その他の活動	53
4.	2011年度 会員動向	55
5.	平成23年度役員・局長・部長・委員長・代議員名簿	57
6.	茨城県下の理学療法士勤務先一覧	58
7.	賛助会員一覧	62
8.	賛助会員広告	63

# 平成23年度総括報告

社団法人茨城県理学療法士会 第9代会長 斉藤秀之  
(筑波記念病院)

日頃より、皆様には社団法人茨城県理学療法士会（図1）の活動に尽きまして格別のご理解とご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

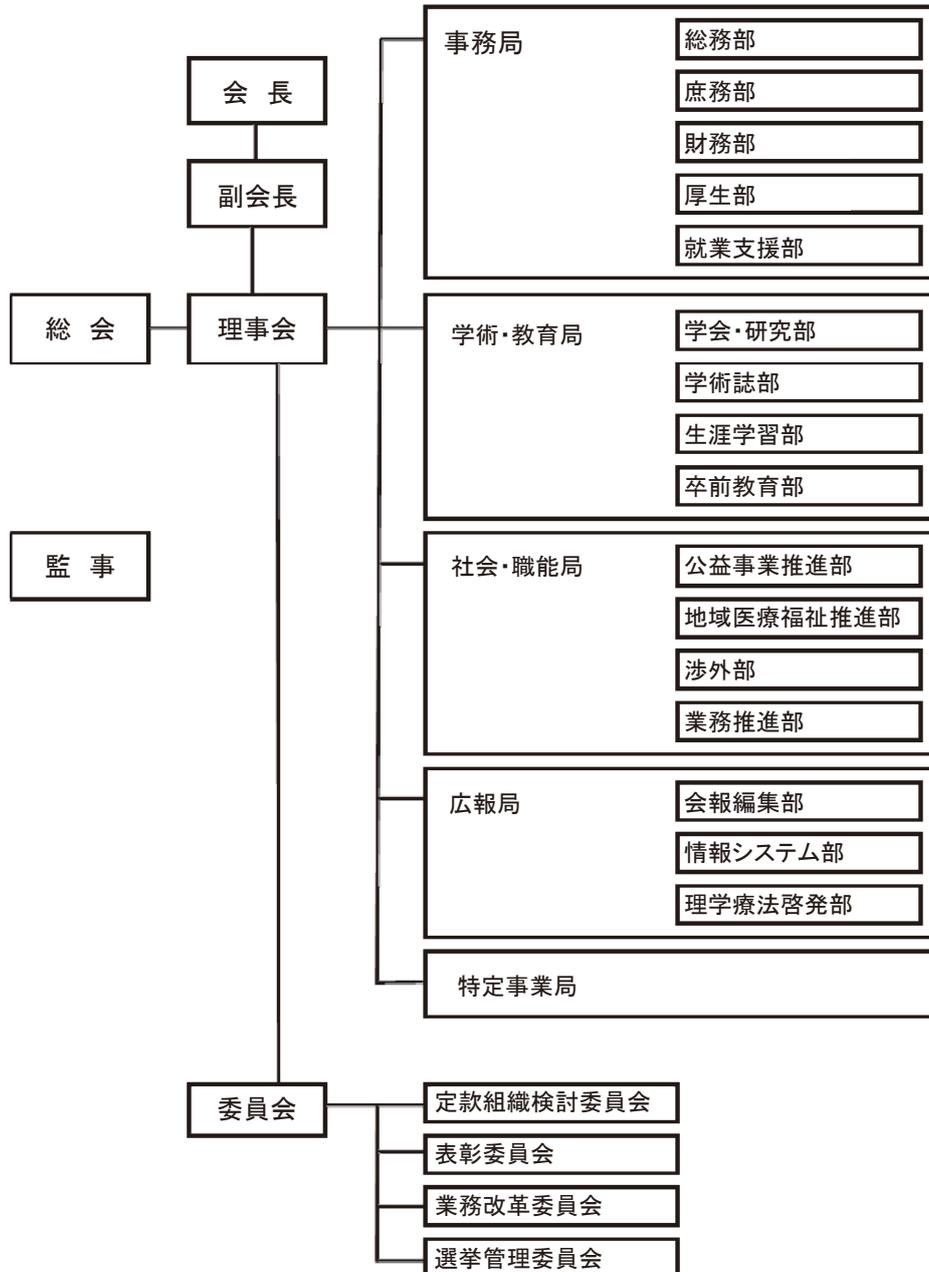


図1 社団法人茨城県理学療法士会の組織

平成23年3月11日に発生した東日本大震災関連としては、「被災状況及び復興に対するリハ関連支援ニーズ」「会員・会員施設における被災状況」「東日本大震災による県内理学療法士養成校の実習施設確保への影響」の調査、日本理学療法士協会事業「東日本大震災義援金・会員自宅被害申請」の周知、「東日本大震災災害見舞金」の給付、「東日本大震災義援金募金箱」設置を実施しました。

平成23年度の新入会者は190名であり、平成24年3月31日時点の会員数は1,387名となりました。平成23年度時点の年間増加率は全国第4位ですが、会員数は16位、人口10万対比は36位といずれも全国平均に達しませんでした。県内理学療法士養成施設は5校、1学年定員は210名です（表1）。増えていく理学療法士の養成に対して、県内理学療法士養成機関と臨床実習のあり方を検討する「茨城県臨床実習連絡協議会」を開催しました。また、卒後の理学療法士の質を担保する事を目的とした、唯一の公的なプロフェッションとしての生涯学習制度である、新人教育プログラムに始まる認定・専門理学療法士制度（図2）にて、年1回の茨城県理学療法士学会や新人教育プログラムを含めた各種関連学会・研修会・事例検討会等を複数回開催しました。平成23年度専門領域研究部会入会率は全国で第1位でした。

表1 県内理学療法士養成施設

学校名	学部・学科	定員
アール医療福祉専門学校	理学療法学科	40名
茨城県立医療大学	保健医療学部 理学療法学科	40名
筑波技術大学	保健科学部 保健学科 理学療法学専攻	10名
つくば国際大学	医療保健学部 理学療法学科	80名
医療専門学校水戸メディカルカレッジ	理学療法学科	40名

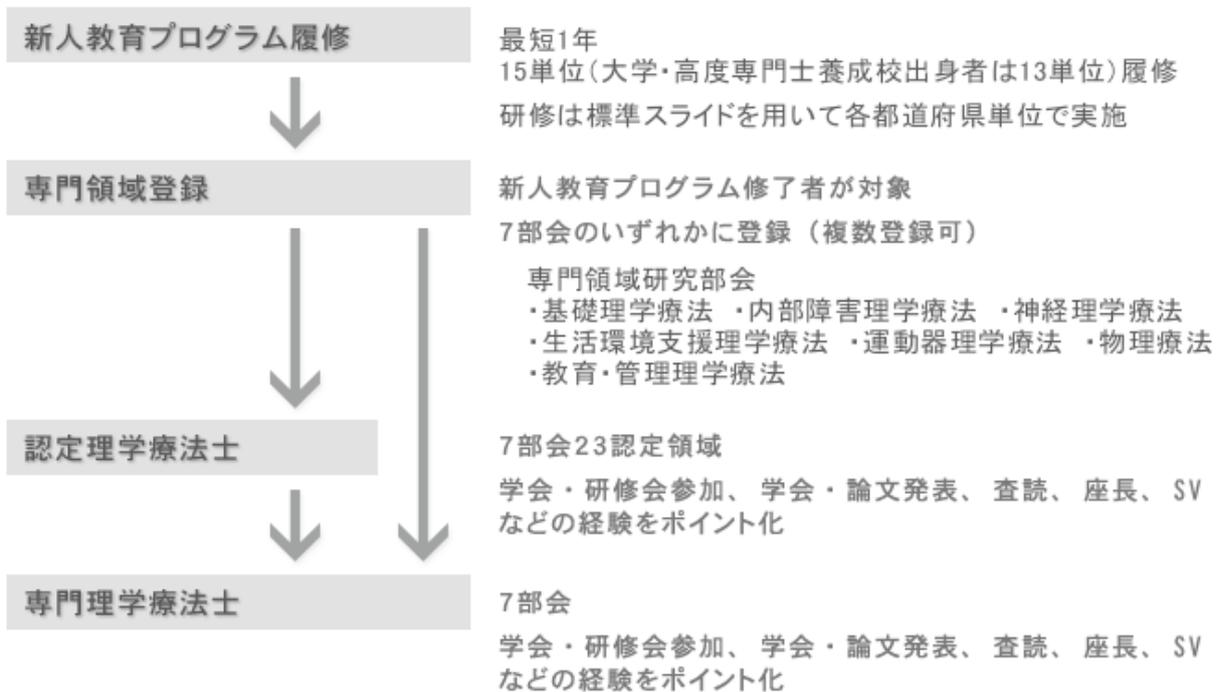


図2 理学療法士の生涯学習のイメージ  
 (日本理学療法士協会ホームページより引用)

その他の事業として、毎年恒例となった年2回の市民公開講座、理学療法見学会及び進路指導説明会を中心とした理学療法週間イベント、介護者講習会への講師派遣、理学療法相談事業、公的会議への参加や委員派遣(推薦12件)、社団法人茨城県看護協会「まちの保健室」との共同公益事業の複数回開催、他団体主催事業の共催(7件)や後援(31件)等を実施しました。平成22年度に中止となった、茨城県訪問リハビリテーション実務者研修会を共催し、共同利用型訪問リハビリテーションステーションの実現に向けて準備を行いました(図3)。平成23年度から開催した「理学療法」に関する作文コンクール事業には、51(中・高校生の部26、一般の部25)の作品応募があり、中・高校生の部、一般の部それぞれ最優秀賞1、優秀賞2、佳作3の表彰をしました。理学療法士が多くの県民に寄与している姿を実感できた有意義な事業でした。また、会員施設ネットワークシステムの構築開始、「賛助会員等との意見交換会」、茨城県理学療法士連盟と連携した職能活動や政治活動も展開しました。さらに、「インフォメーション」「年報ひたちの」やホームページなどの広報媒体を充実しました。

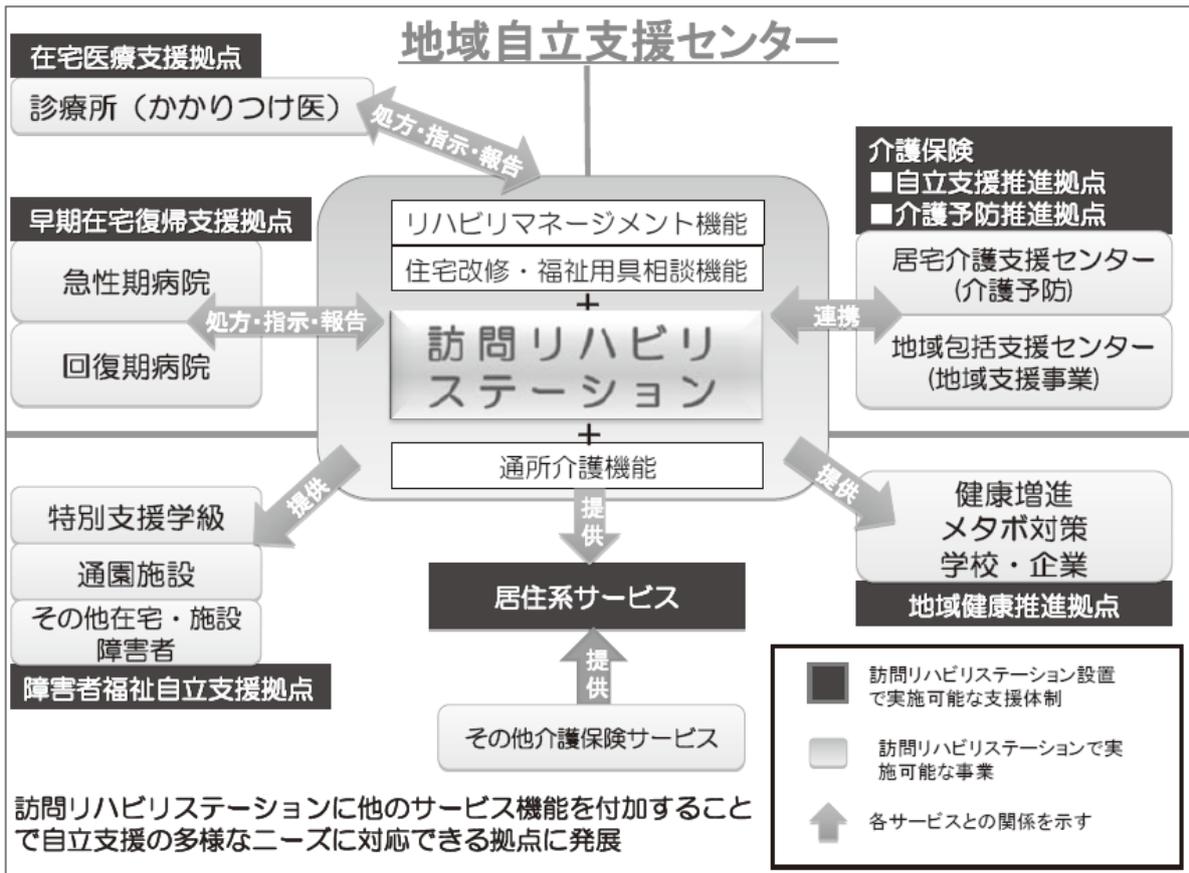


図3 共同利用型訪問リハビリテーションステーションのイメージ

その他の活動として、茨城県看護協会と茨城県栄養士会の両社団法人が位置する茨城県保健衛生会館に事務職員雇用を含めた本会事務所機能移動に向けた調整を実施しました。

社団法人茨城県理学療法士会は県民の医療・保健・福祉の発展に寄与することを目的として、理学療法士のためだけに活動するのではなく、多職種・施設・団体に寄与するための活動を実践しています。

今後とも皆様からの末長いご指導ご鞭撻のほど宜しくお願い申し上げます。

## 表彰

### 平成23年度表彰式

#### 功労賞

金子哲 氏

所属：水戸赤十字病院

履歴：平成 14～19年 選挙管理委員会委員長

平成 20年 特定事業局長

平成 21年～現在 理事・特定事業局長

#### 学会賞

山神翔太 氏

所属：つくばセントラル病院

演題名：「受傷起点である運動動作に対し細分化・階層化した動作指導を  
図り再発予防を試みた症例」

#### 功績賞

白川守 氏

所属：鹿島労災病院

入会年度 1978年・・・在籍期間 33年

新井光男 氏

所属：つくば国際大学

入会年度 1981年・・・在籍期間 30年

高倉秀暢 氏

所属：水戸メディカルカレッジ

入会年度 1981年・・・在籍期間 30年

福山勝彦 氏

所属：つくば国際大学

入会年度 1986年・・・在籍期間 25年

## 平成23年度第1回「理学療法」に関する作文コンクール事業

社会・職能局 公益事業推進部長 村田康成（石岡循環器科脳神経外科病院）

当部では、今年度より新たな公益事業として「理学療法」に関する作文コンクールを実施致しました。これは理学療法についての理解と関心を深め、これからの理学療法のあり方を共に考える機会とするとともに、県民の皆様の理学療法に対する社会的認識を高めるための啓発を目的としました。テーマを「理学療法に想うこと」とし、理学療法を体験、経験して感じた喜びや楽しさ、苦労など、また、理学療法に対して望むこと、期待することなどを募集内容としました。応募作品は、最終的に中・高校生の部で26作品、一般の部で25作品と多数寄せられ、大半の作品が自ら、もしくはそのご家族の体験談を交えての理学療法に対する様々な想いが綴られているものでした。病気や怪我によって我々が想像できないような苦しさ、戸惑いといった感情の中で、多くの方が理学療法を通して勇気や希望の光を見出し、生きる原動力となっていることが作品を通して実感致しました。

また、同時に感動、感謝といった言葉を多数拝見致しました。この事業は県民への理学療法の啓発が主たる目的ではありますが、我々理学療法士にとって大いに励みとなり、やりがいを感じられると共に、理学療法士としての自負、責任感を感じられるものにもなりました。先日の茨城県理学療法士学会での表彰式を終えてのわたくしの感想です。今後、入賞作品の作品集を発行する予定ですのでご覧いただければと思います。この度の作文コンクール事業の成功は、士会員の皆様の広報、周知活動の賜物であり、この紙面を借りて御礼申し上げます。また、来年度以降も継続事業として展開して参りますので、これからも皆様のご指導、ご協力の程、宜しくお願い致します。



## 平成23年度活動報告

# May

5月22日

第35回定期総会・第36回定期総会 つくば国際大学

宮崎綾香（いちほら病院）

第35回定期総会では、①平成23年度事業計画②平成23年度収支予算③平成23年度役員改選④第29回関東甲信越ブロック理学療法士学会報告⑤公益社団法人移行に関する進捗状況報告についての審議が行われ、承認されました。

第36回定期総会では、①平成22年度事業報告②平成22年度収支決算③平成22年度監査報告④平成23年度補欠役員（理事）選出⑤公益社団法人茨城県理学療法士会定款修正⑥社団法人茨城県理学療法士会定款細則改正についての審議が行われ、承認されました。

今回の定期総会は、震災の影響で第35回が延期され審議する内容が多く、限られた時間の中、皆様のご協力のお陰で無事終わる事が出来ました。今回も多くの方が参加され、会長・副会長を含む理事と監事の改選が行われました。



第35回定期総会



第36回定期総会

## 平成 23 年度新人オリエンテーション つくば国際大学

鈴木雄貴（いちほら病院）



平成 23 年度新人オリエンテーションでは、第 46 回理学療法士国家試験を合格し、晴れて理学療法士となった新人達へ、佐藤会長が、理学療法の歴史・現状、協会のしくみなどの説明をして下さいました。その中で、近年注目されている訪問リハビリステーションについて、設立するための実際の動きを分かりやすく説明して頂き、今後、理学療法を守るため、発展していく為に国会で意見を伝えることができる

国会議員が必要であり、政治に関心を持っていかなければならないと感じました。

## 平成 23 年度第 1 回研修会 つくば国際大学

テーマ：理学療法士・作業療法士法および関係法規

講師：佐藤弘之氏（株式会社日立製作所 日立総合病院）

参加者：197 名

岡野良介（いちほら病院）



入職後初めての研修会となり、緊張感が漂いつつも和やかな雰囲気で開催されました。講義では日立製作所日立総合病院の佐藤弘行先生に「理学療法士・作業療法士法および関係法規」について講義をしていただきました。理学・作業療法士の数は増加の一途をたどり、専門性を引き出し、医療現場で働くためにも、法律に関する理解が必要となってくると思います。法律は療法士を守る物でもあると佐藤弘行先生

はおっしゃっており、今回の講義で法律の知識を学ぶことで、仕事を円滑に行っていくものと思います。また、診療報酬、施設基準などの知識は普段確認する機会が少なく、今回の講義で再確認することが出来ました。「ひやりはっと」についても、各レベルや量など様々な話があり、臨床家として働いていく私達にとって興味深い話となり、気を引き締めて業務を行っていく必要性を感じました。私を含む受講生は、佐藤先生のお話を熱心に聞き、理学療法士としての将来性を考えるきっかけになったと思います。

## 平成 23 年度第 2 回研修会 つくば国際大学

テーマ：国際生活機能分類

講師：浅川育世氏（茨城県立医療大学）

参加者：258 名



井土祐樹（いちほら病院）

平成 23 年度第 2 回研修会は、「国際生活機能分類（ICF）」をテーマとし、茨城県立医療大学理学療法学科の浅川育世先生に御講義いただきました。内容は、ICF の概要、現状、臨床への活用方法等を症例報告を交えながら説明していただきました。ICF 自体は十分に認知されているが、臨床現場では有効に活用されていないのが現状のようです。

講義の中で最も印象的だったのは、ICF は「発想の転換」を引き出すツールになるということです。それぞれのプラス面/マイナス面は捉え方によっては、プラス面→マイナス面/マイナス面→プラス面になりうるもので、それを ICF に基づいて整理することで、それぞれの面が可視化され、解釈が容易になり新たな視点で患者様を見ることができるようになるということでした。

患者様のプラス面・マイナス面の両面に目を向けると同時に、そのプラス面が本当に患者様にとってプラスなのか十分に見極める必要性を感じました。

## 平成 23 年度第 1 回特別研修会 つくば国際大学

テーマ：職場での人間関係構築に向けて-2-

講師：社会保険労務士 李怜香 先生

参加者：180 名



倉田俊洋（いちほら病院）

社会保険労務士・産業カウンセラーである李怜香先生をお招きし、「職場での人間関係構築に向けて 2」が開催されました。

セクシャルハラスメントやパワーハラスメントの定義から、裁判例などの具体的事例を交えて分かりやすく講義していただきました。職場内で防止するためのアプローチ方法を 1) 法規制から 2) 労働・雇用の在り方から

3) 職場から、と分けて説明いただき、理解を深めることができました。

職場内でのハラスメント防止のためのコミュニケーションについては、円滑な人間関係構築の手段をご提示いただきました。傾聴の方法として積極的姿勢で相手の話を聞き、意識を相手に向ける。相手の話を途中で遮らずに話のポイントを繰り返すことが良好な人間関係の第1歩であると感じました。また、アサーティブコミュニケーション（自分のできる事を提示した上で他者をお願いをしたり、要望を伝える方法）を意識することで、円滑に目的を遂行する一助になるのではと感じました。この事は職員同士だけでなく、患者様との会話にも通じるのではないのでしょうか？講義を聴いていた皆さんも明日から使える技術として職場に持ち帰り、より円滑な人間関係を築くヒントを得られた事と思います。

## 平成23年度第2回特別研修会 つくば国際大学

テーマ：臨床実習コロキウム2～茨城県における臨床実習を考える～

参加者：113名



伊丸岡綾沙（筑波メディカルセンター病院）

「臨床実習コロキウム2」に参加させて頂き、他施設や学校側の意見を知る良い機会となりました。

アンケート結果では、臨床実習の評価やマニュアルの標準化を望む声が多いとありました。施設間での教育・評価の違いが、単位修得の可否や卒後の能力に影響を生じる可能性があると思います。

私自身は現在臨床経験3年目で、来年度からSVを担う予定です。まだマニュアル化が実現しない中で、できるだけ学生が平等な評価・教育を受けられるようにできればと思います。そのために、複数人で評価するようにすること、指導者として自己研鑽に励むことなどが、今できるのではないかと思います。

5月28日

## 茨城県医療介護連携システム推進協議会設立総会

茨城県建設技術研修センター

地域医療福祉推進部 川崎仁史（茨城北西総合リハビリテーションセンター）

茨城県における保健・医療・福祉の各分野が、疾患や病期を問わずにシームレスに連携・連結するための体制を整備していくことの必要性が呼び掛けられ、各分野からの参加者およそ120名の承認を受けて“茨城県医療介護連携システム推進協議会”が設立されました。協議会会長には大田仁史氏をご就任され、今後、協議会役員の選出や事務局の設置を含めて具体的な活動が行われていきます。患者・利用者にとって住みやすい社会を作るために重要な取り組みであり、我々理学療法士にも大きく関わる内容であるため、今後の活動に注目していきたいと感じました。



# June

6月12日

平成 23 年度第 3 回研修会 小美玉市四季文化館みのーれ

テーマ：神経筋トレーニングと筋力増強

講師：立元寿幸氏（東京医科大学茨城医療センター）

参加者：322 名

鈴木雄貴（いちほら病院）



平成 23 年度第 3 回研修会では「神経筋トレーニングと筋力増強」というテーマで、東京医科大学茨城医療センターの立元寿幸先生にご講義頂きました。

講義では、神経筋トレーニングと筋力増強の関係性や PNF の紹介などをして頂きました。実技では、講義を聞いていた理学療法士の前屈動作をみごと改善させ、会場がどよめく場面もありました。今回の講義で、PNF などの神経筋

トレーニングの重要性に気づかされた理学療法士も多かったと思います。茨城 PNF 勉強会なども開催しているとのことで、興味がある方は是非参加して頂ければと思います。

平成 23 年度第 4 回研修会 小美玉市四季文化館みのーれ

テーマ：循環器（学）からみた理学療法介入の視点

講師：黒澤保壽氏（石岡循環器科脳神経外科病院）

参加者：290 名

鈴木理絵（茨城西南医療センター病院）

平成 23 年度第 4 回研修会は、「循環器（学）からみた理学療法介入の視点」をテーマとし石岡循環器科脳神経外科病院の黒澤保壽先生にご講義頂きました。

内容としては、安静時だけでなく運動時のバイタルサインの変動を捉えることが重要であるとのことで、運動によって脳・肺・心臓・腎臓がどのような影響を受けるかなど、運動療法に係る循環動態についてのご説明を頂きました。

早期離床を求められるなかで、患者様の体の中で何が起きているかを、運動を提供する立場の私たちが理解する重要さを再確認できる研修会となりました。モニタリングをしっかり実施していたとしても、「何か変？」に気付くことができなければ意味がありません。

知らなければ、気付けなければ、自信を持って安全な理学療法を行えませんし、万が一異変が起きた時に対処もできません。運動による循環動態をしっかりと理解することにより、どこまでだったら運動できるのか・負荷をかけられるのか、どの範囲までならバイタルの変動を許容できるのかを自信を持って行うことができ、それぞれの患者様に最適な運動を提供することができます。この研修会で、リスク管理の重要性を改めて学ぶことができ、患者様が発するサインを見逃さずに受け取り、背景にどんな状況が隠れているかを考えながら、自信を持ってADLの拡大につなげていければと思います。

## 平成23年度第5回研修会 小美玉市四季文化館みのーれ

テーマ：協会組織と生涯学習システム

講師：筑波記念病院 斉藤秀之氏（茨城県理学療法士会 会長）

参加者：166名

山根靖史（いちほら病院）

今回の研修会では、日本理学療法士協会が作成したビデオを視聴後、斉藤会長が説明・補足をして下さいました。日本理学療法士協会の沿革、組織の位置づけや組織図等について説明して頂き、生涯学習プログラムについては新人教育プログラム・生涯学習基礎プログラム・専門領域研究会と専門理学療法士についての説明があり、生涯学習システムの大まかな流れを理解することができました。

生涯学習の流れが確認できたことによって目標が立てやすくなると感じ、意欲が向上しました。生涯学習プログラムを軸として自己研鑽し、能力の高い理学療法士にならなければならぬと感じました。

## 平成23年度新人歓迎会 小美玉市四季文化館みのーれ

厚生部長 有田真己（介護老人保健施設ゆうゆう）

小美玉市四季文化会館みのーれ（風のホール）にて新人歓迎会を開催いたしました。今年も参加者は、80人を超え、ゲームで盛り上がり、自己紹介で「ものまね」披露など大盛況でした。

今年のゲームは、お題当てクイズでした。“茨城”と言えば・・・“納豆”・“水戸黄門”など、一番多く出そうな回答をフリップに書いてグループで競っていただきました。“斉藤会長”といえば・・・うーん？難しかったですね！！



自己紹介では、さすがにみなさん緊張していましたね！だけど、会の後半には、皆さん打ち解けてお話しをされていたように思います。限られた時間でしたが、皆さん少しでも顔と名前を覚えていただけたのではないのでしょうか！？

これからたくさんの人と出会い、多くの「人脈」が作られることと思います。一人の力では限りがあります。しかし、「人脈」を限りなく広げることにより、大きな仕事も成し遂げられる可能性が高まります。臨床においてチームアプローチの重要性も、こういった場から学ぶことも多いと思います。

われわれ厚生部といたしまして、今後もこのような場を提供し、皆さんの人脈作りに少しでも役立てればと思います。

次回のイベントには、今回、参加されていない会員の皆様におかれましても、是非ご参加ください。

6月16日

## 理学療法（リハビリテーション）進路指導説明会 県南生涯学習センター

広報局長 高橋晃弘（アール医療福祉専門学校）



県南生涯学習センター（土浦市）にて、広報局理学療法啓発部のイベント、理学療法（リハビリテーション）進路指導説明会を実施しました。県内の高等学校進路指導担当者へ案内を送付し、今年度は19校19名の参加がありました。内容は、斉藤会長がリハビリテーションや理学療法を取り巻く環境の変化や雇用状況などについて詳しく説明をされました。その中で「志の高い生徒さんに

リハビリ業界に来てもらいたい」という言葉が非常に印象的でした。その後は OT 士会、ST 士会の代表による職種や業務・現状についての説明、県内の養成校（5校）による学校の特色などについての説明を行いました。進路指導の先生方は熱心にメモを取っていらっしやって、理学療法（リハビリテーション）への関心の高さを感じられました。

6月24日

## IBS 茨城放送ラジオ出演

地域医療福祉推進部長 所圭吾（茨城県理学療法士会）

6月24日（金）に「すこやか介護」という番組に出演しました。テーマは「災害時の高齢者支援」で、東日本大震災での理学療法士の対応や課題・災害時の役割や生活不活発病の予防等について Q&A でお話させていただきました。生放送で、マイクを目前にすると大変緊張しました。今後の本会の発展にメディアは欠かせません。公益事業等の広報にも重要な位置づけとして検討していきたいと思えます。

### <主な Q&A 内容のまとめ>

(Q) 東日本大震災での災害医療活動として、理学療法士は何かでき、何が課題だったのか。

(A) 日本理学療法士協会では、生活不活発病の対策法を紹介。茨城は全域が被災し、士会としての活動は思うようにできなかった。療法士は、大半が病院や施設に所属し、所属先の対応に追われた。一方、療法士が夜間や早朝に病院に存在することで、看護・介護スタッフや、患者様・利用者様の安心感・平穏感が普段よりあったという話も。課題は、地域で活動をする理学療法士が不足していて、全域で十分な情報収集と支援活動をできなかったのが一つ。

(Q) 災害支援は状況に応じた専門職の配置が力を発揮。理学療法士のすべきことはそもそも何か？

(A) 避難所では生活不活発病等の予防に体操の実施や、その予防のわかりやすい情報を速やかに発信することは重要。また既に疾病がある方には、個人のリスクを考慮した運動や生活動作の支援は専門である理学療法士の大きな役割。特に高齢者には、生活機能や身体機能低下をいち早く予防し、低下した方には更なる低下を予防し、災害以前の機能に回復するように努めることが重要。

(Q) 茨城ではこれまで、これほどの災害はない。今回の教訓を理学療法士はどう生かすのか？

(A) 数が不足して震災で積極的な活動ができなかった理学療法士を増やし、病院や施設やその周辺地域、より広い地域で普段から活動ができるネットワーク体制を築いていきたい。

(Q) 災害時高齢者が望むべき形態を中心に、生活不活発病などを防ぐにはどうすればいいか？

(A) 避難生活は、身体を動かす機会が減りやすく、生活不活発病になりやすい。予防の心がけは、①なるべく動く②日中ずっと横にならない③身边を片づけ動ける環境を作る④「安静第一」と思いこまない。身体を起こすことが大変な方は座ることから、立つのが大変な方は立ちあがることから、動ける方はよく歩くことから実施を。

(Q) 高齢者の日ごろの意識を高めることも必要では？

(A) 県内各地域で健康教室が実施されているが、茨城県理学療法士会としても、地域で活躍する療法士を増やし、より地域に積極的に関与していかなければならないと感じている。できるだけ長く心も体も元気な状態で、災害にも強いお年寄りが増えるよう、より一層社会貢献していきたい。



# July

7月2日

## 第47回いばらき看護の祭典 参加報告

事務局長 大曾根賢一（筑波メディカルセンター病院）

つくば国際会議場にて「第47回いばらき看護の祭典」が開催されました。祭典では看護学校の生徒さんによるキャンドルサービスを始め、優良看護職員知事表彰、「看護に関するエッセー」入賞作品の発表、愛の募金贈呈と続き、特別講演ではおおい町国保名田庄診療所所長の中村伸一先生による「自宅で大往生―「ええ人生やった」というために」と題された講演がありました。

キャンドルサービスは今までも幾度となく見る機会がありましたが、改めてナイチンゲール誓詞に耳を傾けてみると看護の精神的な柱はここにもあるのだろうなと思えてきました。理学療法士にとってのマインドはそれぞれ皆にあるにしても、共通した精神的な柱は何だろうなんて思いながらも見ていました。

今回で4年目を迎える「看護に関するエッセー」では、高校生の部と一般の部それぞれ最優秀賞、優秀賞2選、佳作3選が選ばれ、作品の朗読とともに表彰が行われました。それぞれ自身や家族が看護を受けた経験や看護師になりたい気持ちを自身の言葉で綴っており、とても素直に聞き入れられる作品ばかりでした。このエッセーはもちろん応募した方々の為ではありますが、もしかすると看護師になりたての人や長く看護師をしている方々が改めて自分自身を見つめる直す言葉にもなっているのではないかと感じました。このような機会を県や看護協会が作り出せることは大変素晴らしいことであり、私としても見習いたいイベントでありました。

7月9日・24日

## 茨城県看護協会「まちの保健室」

## 茨城県理学療法士会「介護予防キャラバン」共同公益事業

地域医療福祉推進部長 所圭吾（茨城県理学療法士会）

昨年度初めて共同開催された茨城県看護協会の「まちの保健室」と、本会の「介護予防キャラバン」の共同公益事業を、下記の通り開催いたしました。今年は健康相談や体力測定その他に、各地域のシルバーリハビリ体操指導士会の協力も得て体操も実施するなど、より充実した内容で開催することができました。それぞれの分野での切り口から、実施中も相

互に協力しながらできたことは今後の連携のためにも貴重な時間となりました。

今後、第3回を水戸医療圏以外で検討しています。会員の皆様には、引き続き広報・ご支援・ご協力のほどよろしくお願いいたします。

また、ご協力いただきました茨城県看護協会様、茨城県立健康プラザ様、水戸・大宮シルバーリハビリ指導士会様、社会職能局各部員の先生方には紙面をお借りして感謝・御礼申し上げます。



<第1回>

日時：平成23年7月9日（土）13:30～16:30

場所：大宮ショッピングセンターピサーロ 1階センターコート

参加者：本会実施 20名（全体25名）

<第2回>

日時：平成23年7月24日（日）13:30～16:30

場所：イオンモール水戸内原 3階ブリッジ

参加者：本会実施 41名（全体78名）



《まちの保健室に参加して》

地域医療福祉推進部 白砂綾佳（小豆畑病院）

7月9日（日）に大宮ショッピングセンターにて、看護協会の『まちの保健室』、本会の『介護予防キャラバン』の共同公益事業にスタッフとして参加いたしました。

体験していただいた方には、血圧測定や体力測定、いきいきヘルス体操などを実施し、それぞれの分野を活かした指導ができたのではないかと思います。看護関係者、理学療法士、シルバーリハビリ体操指導士との連携をより深めることが出来た1日だと感じました。今後もこのような機会を増やし、理学療法士の市民啓発に繋がっていきたいと思います。

7月16日

平成23年度 第1回市民公開講座 ひたちなか市文化会館

シンポジウム「寝たきりにならないために一理学療法（士）ができること」

社会・職能局 公益事業推進部部員 遠藤卓也（秦病院）

部長 村田康成（石岡循環器科脳神経外科病院）

当日は大変暑い中68名（内シンポジスト、参加局員15名含む）の方々にご参加頂きました。参加者の中にはご自身でリハビリに通っている方・経験した方、ご家族が入院中である方、リハビリに関連する職種の方、PT学生、高校生などもおり、皆様熱心に聴講されていました。質疑応答では「家族が行えるリハビリの方法はないか」「認知症の方にどのように接したらよいか」など多くの質問が挙げられ、関心の高さが伺えました。

参加された方の感想として、「ユニークな説明でとても分かりやすく理解できた。」「家族が入院中で心配していたが、大変参考になりました。」「また参加したいので定期的開催してほしい。」「地域の集会にも来て講座を行ってほしい。」などの感想が寄せられ、理学療法士の果たすべき役割がまだまだあると感じました。

今後も開催が予定されていますので、多くの方に市民公開講座を通して理学療法（士）を知ってもらえると良いと思います。



7月25日・27日・28日

第93回全国高校野球選手権茨城大会 メディカルサポート

地域医療福祉推進部長 所圭吾（茨城県理学療法士会）

高校野球選手権大会への会員派遣事業は、2002年から開始され、10年目となりました。当初は夏の甲子園予選の準々決勝以上でしたが、現在では秋季・春季大会の準決勝以上で

もメディカルサポートを実施しております。今大会におきましても、下記日程にて6名の理学療法士がメディカルスタッフとして参加しております。

全国的にも、野球に限らずスポーツ分野での理学療法士の活動が増えてきております。茨城県でも、昨年公募いたしました高校サッカーでも動きがでてきております。今後は、予防的な観点から大会期間中だけでなく、より定期的な活動もできるよう支援していきたいと思っております。

<活動実績>

準々決勝	7月25日(月)	水戸市民球場・土浦市営球場	松本正孝氏、神宮史明氏、田中直樹氏、田村耕一郎氏
準決勝	7月27日(水)	水戸市民球場	古田英二郎氏、松本正孝氏
決勝	7月28日(木)	水戸市民球場	中村功氏、松本正孝氏

<<高校野球メディカルサポートに参加して>>

田村耕一郎(広瀬医院)

今回、高校野球茨城県予選のメディカルサポートに参加し、私は準々決勝2試合を担当しました。試合中のアクシデントに対する対応、試合後のメディカルチェックが主な仕事でした。実際にアクシデントが発生し緊迫する場面もあり、病院内での活動とは違った理学療法士としての役割を認識させられました。大会は終了しましたが、スポーツ現場は、試合のみでなく障害予防、リコンディショニングを含めた日頃のサポートに理学療法士が関わることを求めていると改めて感じました。

# August

8月28日

「教育と医療」協働支援研修会 茨城県立医療大学

参加者：146名（教育者側85名、医療者側61名）



地域医療福祉推進部次長 石塚晴美

当初定員は100名でしたが、計146名の参加となりました。全体会では茨城小児リハの会の歩みと外部専門家に求められる事について、教育と医療の協働には双方の歩み寄りや共通認識が必要不可欠で、更に子どものQOL向上には取り巻く人々・環境に配慮しながらコーディネートできる人材育成の必要性が示唆されました。シンポジウムは各専門分野からの率直な意見が提示され、外部専門家の評価が教育上有効であるが受け手側の理解に差があり、共通言語を用いてわかりやすい助言をする必要があることが提示されました。

科会においても各テーマの講義・情報交換がなされ、参加者からは、各専門分野の考え方や使用言語の理解ができ非常に良い研修会であったと感想を多く頂いています。今回、同じ子どもでも職種によって視点が異なり、表現方法も異なることを知ることができました。また、子どもを取り巻く環境を整理して関わる重要性を感じました。このような共通課題を認識できる機会は非常に重要であり、今後も協働事業研修会を継続していきたいと思えます。

# September

9月18日

理学療法士講習会〈基本編〉の開催（日本理学療法士協会委託事業）

アール医療福祉専門学校

テーマ：慢性閉塞性肺疾患患者への呼吸リハビリテーションの基礎と臨床

講師：富田和秀氏（茨城県立医療大学）

高橋晃弘氏（アール医療福祉専門学校）

飯塚真喜人先生（茨城県立医療大学医科学センター）

堀江健人先生（前橋赤十字病院呼吸器内科）

参加者：77名

# October

10月16日

平成23年度第6回研修会 茨城県立医療大学

テーマ：理学療法に役立つ（といいなあ）発達障害児の知識と支援

講師：岡田洋一 先生（埼玉県立小児医療センター）

参加者：132名

倉田俊洋（いちほら病院）



第6回研修会では、埼玉県立小児医療センターの岡田洋一先生を講師にお迎えし、「理学療法に役立つ（といいなあ）発達障害児の知識と支援」というテーマでご講演いただきました。自分を含め、小児リハビリテーションに携わった経験のない参加者が多数を占める中、発達障害についての定義や代表的疾患の症状、診断基準、具体的な治療戦略や支援方法等々、時折動画等も交えながら丁寧に説明して頂

き、発達障害児に対するリハビリテーションという自分にとって未知なる領域に対して、多少なりとも具体的なイメージを持つことができたかと思います。また、講義の中であった、発達障害に従事する理学療法士が臨床でよく困っていることに対し、キーワードを抽出し、関連性を探っていくというプロセスは、発達障害に限らず、その他の障害における臨床の場においてもとても大切なことであると感じました。時折ジョークを交えつつ進行する岡田先生の講義はとても興味深く面白く、90分があっという間に感じました。

平成23年度第7回研修会 茨城県立医療大学

テーマ：頸髄不全損傷者の現状・評価

講師：千見寺芳英 先生（国立障害者リハビリテーションセンター病院）

参加者：168名

長谷川大悟（特別養護老人ホーム サンフラワーひたちなか）



第7回のテーマは『頸髄不全損傷者の現状・評価』についての講演でした。

講義の内容は脊髄損傷リハビリテーションの流れから始まり、評価や治療、専門的な内容まで一時間半の講演で、国立障害者リハビリセンターでの頸髄損傷

患者へのアプローチ方法や実際の治療場面を交えての講義など千見寺先生ならではの講義は大変有意義でした。

講義終了時にはフロアから治療に対する質問もあり、先生の経験を踏まえた回答を頂き、脊髄損傷患者を担当している療法士は明日からの臨床の参考になったものと思います。今日ではEBM、EBPTという言葉をよく耳にします。千見寺先生も本講演で根拠のある治療、しっかりとした評価を行ったうえで動作の獲得へつなげる事の重要性をお話しておりました。

講義の内容とは離れますが、個人的な意見として研修会に参加する事は、自己研鑽の他、療法士同士の交流が持てる事もメリットであると考えております。例えば、講演以外の時間帯において困難事例について他の療法士に相談したり、それぞれの事業所の特性について意見を交わしたりするなど、知見を広げる重要な場となります。

士会研修会には病院、診療所、施設など様々な分野の療法士が参加しています。研修会に参加することで学問以外の知識もつくのではないのでしょうか？皆さんも積極的に参加し、ネットワークを大切にしていきましょう。

10月22日

## 介護予防キャラバン 第27回常総市「ふくし祭り」

常総市石下福祉センター

社会・職能局 公益事業推進部長 村田康成  
(石岡循環器科脳神経外科病院)

社会・職能局部員 岩崎円 (石岡医師会病院)



昨年に引き続き、第27回常総市「ふくし祭り」において、「おたっしゃ21」による体力測定及び理学療法相談を実施してきました。当日は悪天候にもかかわらず地域住民の皆様70名ものご参加をいただき、大変盛況なものとなりました。参加された地域住民の皆様からは、普段病院や施設で聞かれない日常生活で困っている小さな出来事を気軽にまた熱心に話してくださる方が多く、地域での理学療法のニーズ

を実感できるものとなりました。近寄りがたい理学療法士ではなく、身近に感じられる理学療法士として今後も地域の皆様に貢献していけるように頑張りたいと思います。今後も各地域に出向いての事業展開をして参りますので、今後のご支援・ご協力の程よろしくお願い致します。

10月30日

## 第24回いばらき医療福祉研究集会 つくば国際大学

社会・職能局部員 井上愛理（石岡循環器科脳神経外科病院）



つくば国際大学にて第24回いばらき医療福祉研究集会での「介護予防キャラバン」に、スタッフの一員として参加させていただきました。事業内容としては、リハビリ相談・問診・体力測定を実施し、今回は研究集会ということもあり、医療福祉関係者・一般の方々にも本会の事業を広く知っていただく良い機会となりました。また、作業療法士会・言語聴覚士会との共同企画のリハビリテーション

相談会では、それぞれの分野を活かして十分な指導が出来たのではないかと思います。普段私は地域の方々と接する機会が少ないため、地域での理学療法士の役割は何なのか？を今回の活動で考えることができました。今後もこのような事業を通して、地域の方々に介護予防の重要性を感じていただければと思います。

# November

11月8日～13日

## 「介護の日」イベントにおけるパネル展示

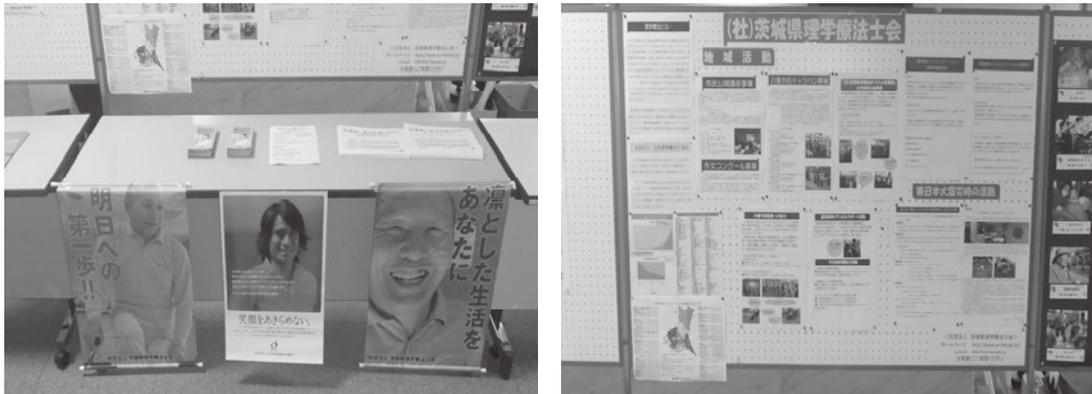
茨城県庁 2階 「県民情報センター 県政広報コーナー2」

展示内容：理学療法士の啓蒙、当会の地域活動紹介、東日本大災害時の理学療法士の活動、  
県内理学療法士所属施設、地域リハビリテーション体制の紹介、  
各種パンフレット配布

社会・職能局 地域医療福祉推進部長 所圭吾（茨城県理学療法士会）

茨城県「介護の日（11月11日）」関連事業の一環として、下記の通りパネル展示をいたしました。特定事業局・広報局をはじめ士会役員のご協力をいただき、充実した内容で作成することができました。展示に際し、ご協力いただいた方々に、心より御礼申し上げます。

<展示の様子>



11月19～20日

## 関東甲信越ブロック臨床実習指導者研修会

学術・教育局 卒前教育部長 浅野信一（つくばセントラル病院）

平成23年11月19日（土）、20日（日）の2日間にわたって、平成23年度関東甲信越ブロック臨床実習指導者研修会が、つくば市研究学園のイーアスつくば2Fイーアスホールにて開催されました。受講者は総勢59名。茨城県内からは36名と多くのご参加をいただきました。

臨床実習指導は、将来を担う理学療法士の教育の礎として非常に意義があるものと思

ますので、今回は紙面をいただき講習会について簡単ではありますが報告させていただきます。

研修は次の5名の先生方より各々のお立場から講義していただき、最後にグループワークセッションを実施いたしました。

講義順に、筑波記念病院 斉藤秀之先生「臨床実習指導総論・教育スキル」、埼玉医科大学 高倉保幸先生「臨床実習の指導方法〜クリニカルクラークシップを取り入れたステップアップ式学習指導」、富山医療福祉専門学校 酒井吉仁先生「臨床実習教育の進め方〜つまりきのある学生への教授法〜」、了徳寺大学 加藤宗規先生「臨床実習効果を最大限に引き出すコツ〜応用行動分析学を用いた介入〜」、茨城県立医療大学 大橋ゆかり先生「学校と臨床実習施設の役割〜本学が目指す臨床実習教育〜」。

先生方はそれぞれの切り口でお話をされていましたが、どの先生にも共通する教育手法・教育スピリットが感じました。

詳しくは毎年開催される指導者研修会にご参加いただくとともに、理学療法士協会発行の「臨床実習の手引き第5版」をご参照されることをお勧めいたします。

研修後のアンケート調査では、「今後の指導に生かしていける内容であり大変参考になった」、「ワークショップが有意義であった」といった肯定的意見がほとんどでありました。中には、「実習受入れ施設側の講師の話をもっと聴きたかった」、「会場として外部の声が入りすぎて不適では」といった意見もあり、研修担当としましては今後に生かしたいと思えます。

この研修会は、全国ブロックごとに毎年開催されていますので一度参加されてはいかがでしょうか。他ブロック開催の研修にも参加可能です。

11月26日

### 第3回茨城県理学療法士連盟通常総会 アール医療福祉専門学校

出席者：佐藤弘行、佐藤尚男、大曾根賢一、沼尻一哉、直井洋明、大地寛、高田祐、国谷伸一

社団法人茨城県理学療法士会社会・職能局業務推進部長  
茨城県理学療法士連盟事務局次長  
国谷伸一（介護老人保健施設シルバービレッジ）

茨城県理学療法士連盟会長佐藤弘行先生の進行の下、平成23年度事業報告、平成23年度収支決算報告、平成24年度事業計画、平成24年度収支予算、平成23・24年度役員についての報告が執り行われた。

県連盟の短期計画として、会員の確保と会費徴収、日本理学療法士連盟（上部団体）入会と会費納入をあげている。その具体的な方法については現在も検討中である。日本理学

療法士連盟への入会を考慮すると寄付金のみで賄うことは困難であり、会員の確保と会費の徴収が望まれる。

平成 23 年 10 月 17 日の第 9 回県連盟役員会（県理学療法士会・連盟役員合同会議）にて「山口和之全国後援会茨城県幹事」（後援会県支部長職相当）の選任を行い、城西病院の佐藤尚男先生に依頼し、承諾を得た。なお、同年 11 月 16 日に県理学療法士会会長・県連盟会長・全国後援会県幹事の協議の下、「山口和之全国後援会茨城県事務担当」（後援会県事務局長職相当）はアール医療福祉専門学校の間口春美先生に依頼し、承諾を得た。

## 平成 23 年度茨城県理学療法士連盟研修会 アール医療福祉専門学校

講師：茨城県議会議員 長谷川修平 先生（民主党茨城県議会議員団 代表）

出席者：佐藤弘行、佐藤尚男、大曾根賢一、沼尻一哉、直井洋明、大地寛、有田真己、間口春美、浅野信一、森田英隆、高田祐、国谷伸一

社団法人茨城県理学療法士会社会・職能局業務推進部長  
茨城県理学療法士連盟事務局次長  
国谷伸一（介護老人保健施設シルバービレッジ）

冒頭は、日立製作所で組合労働運動の経歴をお持ちで、そこで得たご経験についてお話いただいた。労働運動は、いかに周囲に想いを伝え、動機づけを図っていくが重要である。政策においても、それを実現するためには政治家へ何度も意見・要望を伝えていくことが必要である。

次に、東日本大震災での茨城県の被災状況についてお話いただいた。茨城県の被害状況については、福島県、宮城県、岩手県と比較して軽視されがちであるが、復興に向けて大変な状況が未だに続いている。大洗港沖で発生した巨大な渦、津波で崩壊した茨城港・日立港区の岸壁などの写真を参考に説明をいただいた。民主党県議団の震災後の活動のひとつとしてチェルノブイリの視察を行った。チェルノブイリと同様に福島原発についても除染が難しいと考えているとのこと。

世界の中の日本について、世界経済の現状と課題、資源小国日本などの話題があった。直面する課題として、震災からの復興、円高対策、エネルギー問題、TPP への対応があげられた。

質疑応答の中で、要望等を政治家へ伝えるにはどのようにしたら良いかという質問があった。それについて、意見要望を聴く会があり、社団法人を含め多くの団体が参加しているため、積極的に働きかけをしてもらいたいと回答があった。それに関連して以下の事項を伝えた。茨城県は全国でも療法士が少なく、県北の方はさらに少ない状況にある。理学療法士、作業療法士、言語聴覚士の地元定着率向上、増加させる働きかけとして「茨城県理学療法士等修学資金制度の新規募集再開に関する要望書」を提出した経緯がある。次

に、地元の議員との付き合い方（関わり方）は具体的にどのようにしたら良いかという質問に対して、政治は数が重要視される世界であるため、関連団体と協同して働きかけてみてはどうかという回答をいただいた。

今回の研修会は、県議会議員をお招きしてご講義いただくものであった。議員や政治を非常に身近に感じることができた。我々理学療法士等が抱える問題を解決するには、やはり政治活動が必須であり、政策を実現するための具体的な手立てを知ることの重要性について考えることができた。今回の貴重な研修会参加を通して、今後の活動に活かしていきたい。

11月27日

## 第15回茨城県理学療法士学会 茨城県立医療大学

テーマ：リハビリテーションに活かす社会人基礎力

～前に踏み出す力、考え抜く力、チームで働く力～

学会長：関口春美（アール医療福祉専門学校）

参加者：380名（会員369名、非会員7名、学生4名）

11月27日（日）茨城県立医療大学において第15回茨城県理学療法士学会が開催されました。380名の方にご参加頂き、盛会に終了することができました。ありがとうございました。

本学会は口述・ポスターの演題発表、基調講演「自分と組織を変革するリーダーシップの原則」、第1回「理学療法」に関する作文コンクール表彰式、特別講演「理学療法の処遇」と盛りだくさんの内容となりました。

茨城県理学療法士会が発足して40年が経ち、会員数は近年急激に伸び、理学療法も社会

に少しずつ認知されるようになってきております。そのような中で今回の学会は、自分たち理学療法士のアイデンティティーの確認と、理学療法の今後について考えるよい機会になったと思います。そして、改めて我々理学療法士が他者に発信する重要性和、発信するのは医療分野だけでなく、保健・福祉そして地域社会に必要と強く感じております。

はじめに、基調講演は、あえて理学療法士ではなくビジネス関係の方にご講演いただきました。「仕事をする」ことは、まず社会の一員として果たすべき役割があり、そのために身につけておく「社会人基礎力」の中の「主体性」を中心に具体的な提言がありました。自分の行動をコントロールする・感情的にならないためにも、すぐに言葉を発するのは



なく、一時停止ボタンでスペースをあけ次の言葉を発することです。そして自分が発する言葉は聞き手に伝えるだけでなく、自分自身に発する言葉でもあるので、ネガティブワードではなくポジティブワードを使用するなど、すぐにでも実行できる内容でした。参加された皆様は実行していますか？ 日々の言葉・行動・態度が積み重なり習慣になっていくと思いますので、会員の皆さん是非実行して下さい。

次に、作文コンクールでは沢山の応募があり、受賞した作品も含めどれも素晴らしい内容でした。理学療法への期待や希望、そして理学療法士への感謝の気持ちなどが綴られた作文は、我々の仕事の励みにもなり、社会へアピールするよい機会だったのではないかと思います。今後も継続されることを期待いたします。

さらに、特別講演では、政治の様子も交えながら、理学療法士の現状・課題について広い視点、視野に立ったお話を伺うことができました。日頃聞くことの少ない海外の理学療法士の現状・諸問題等について貴重な話を聞き、興味深く、そして楽しく拝聴しました。理学療法の歴史は浅く、コメディカルと呼ばれている職種の中でも、組織力、会員数、政治に対する影響力も不十分な状況であることを再認識致しました。理学療法士が社会に向けて発信し、自分たちの地位・名誉を獲得していかなければ明るい未来はないと考えています。我々理学療法士が、さらなる地位・名誉を獲得および向上するには、個人では限界があると考えます。今後は、連盟や後援会などの組織の中で、会員皆様の力を十分に発揮して頂けると幸いです。

演題発表では、発表経験の少ない会員の皆様が少しでも発表する機会が得られるように、ポスターより口述発表を多くしました。また、座長もより多くの会員に座長を経験して頂きたく、2人座長体制をとりました。新人教育プログラム修了者で座長経験のない会員を主座長として各セッションの演題全てを取り纏めて頂き、副座長は主座長のフォローをお願いしました。当日の発表は、事前準備が十分でスムーズに発表できた方がほとんどでした。また、ポスター発表に関しても、ポスターの完成度は年々良くなっていると感じられますが、口述発表・ポスター発表共フロアーからの質疑が少なく、座長と発表者の討論が多くなり残念でした。今後、何らかの取り組みが必要と考えます。

最後に、挨拶で述べましたが、査読結果をふまえ倫理規定の観点から個人が特定できると判断される抄録は少なかったものの、対象者に同意を得ていると記載されている抄録は半数程度に留まっておりました。これは、個人によるものだけでなく、施設間における差がありました。今後、情報管理の重要性はますます高まりますので、各施設における組織的な取り組みが望まれます。

当日ご協力頂きましたスタッフの皆様、朝早くから夕方まで長時間にわたりお疲れ様でした。また、前日の会場設営では、茨城県立医療大学職員の方々にお手伝いいただきありがとうございました。そして、学会・研究部の皆様には事前準備から長期間にわたりお疲れ様でした。



<学会会場内の風景>

基調講演：自分と組織を変革するリーダーシップの原則

広報局 会報編集部長 森田英隆（いちほら病院）



第15回茨城県理学療法士学会にて開会式の後に行われた基調講演では、「自分と組織を変革するリーダーシップの原則」について株式会社FCエデュケーションの田中勉先生にご講演頂きました。

先生は、自己リーダーシップについて「どうやるか」といった How to ではなく、「どう在りたいのか」が重要であると述べられました。また、自立するためには主体性（自分の価値観

に基づいて反応を選択する事）をもって自分が選択し、ポジティブに物事を捉え、ポジティブワードで自分を変えていくことが自己リーダーシップには必要なことであると、成功例を紹介しながら分かりやすくご説明頂きました。演習では「～をしなければならない」という言葉の語尾を「～をします」と変えることで、非常にポジティブな表現となり、聞き手の方も元気になれることを実感したのではないのでしょうか？

士会員の皆様の職場環境や職場での立場は様々ですが「リーダーシップ」とは与えられるものではなく「発揮するもの」とであると認識して、今日から自分を磨いていきましょう！

特別講演会：「理学療法士の処遇」

職能局 業務推進部次長 根本裕樹（水戸済生会総合病院）



特別講演会は理学療法士から初の国会議員となった衆議院議員の山口和之先生のご講演でした。テーマは、『理学療法士の処遇』です。講演の時間が昼食時間にかかっていたのですが、200名を超える理学療法士の皆様方が参加して下さいました。国会のお話から他国での理学療法士の処遇についてのお話があり、日本でのリハビリテーション関連職種・理学療法士の処遇を如何に改善していくか、政治の世界（行政の中）ではまだまだ歴史の浅い理学療法士であり難し

い問題ですが、議員 66 名を集め「安心社会の構築に向けたリハビリテーションを考える議員連盟」を設立し多くの方々と協力し問題改善に向けて活動されています。今回のお話は学術以外のお話であり、私たち理学療法士の現状の問題点・今後の展望などで興味深く聴く事が出来ました。

学会印象記

加藤昂（筑波メディカルセンター病院）



今回、第 15 回茨城県理学療法士学会に参加させて頂きました。症例検討会へは今回が初めての参加で、当日の朝は自分の発表に対する不安を感じていました。私は「膝蓋骨骨折を呈し歩容改善に難渋した症例」という演題でポスター発表をさせていただきました。発表後の質疑応答では自分の予想していなかった部分にも焦点が当てられ、機器を利用した評価方法などについてアドバイスを頂くことができました。周囲の先生方からご指導をいただいた反面、発表を通して他人に自分の考えを伝えることの難しさを実感し、正確に言いたいことを伝えられるようになるということが来年への課題となりました。

また周囲のポスターに比べ、自分のポスターの色合いがいささか地味だったので来年は色調やレイアウトも考慮するなど、聞き手のことも考えた構成ができるのと良いと感じました。

本学会を通し発表演題数が多いことや内容から、他院の理学療法士の研究に対する意欲や向上心を感じることができました。また症例発表や質疑応答を通じて考え方やアプローチの仕方について知ることができ、有意義な時間を過ごすことができたと感じています。今後の臨床業務にむけて良い刺激を受けることができた学会となったと思います。

関口純（茨城西南医療センター病院）

第15回茨城県理学療法士学会は「リハビリテーションに活かす社会人基礎力 - 前に踏み出す力、考え抜く力、チームで働く力 -」をテーマとして開催され、基調講演、特別講演、一般演題発表と多くの講演・発表を聴講出来、充実した一日となりました。今回の学会では、第1回「理学療法」に関する作文コンクールの表彰式も行われました。多数の作文の応募があり、市民の方々の理学療法に対する思いを知ることが出来ました。また、一般演題発表は、口述・ポスター合わせて多くの演題があり、質疑応答も盛んに行われていました。私自身も、一般演題・口述・神経理学療法にて演題発表をさせて頂き、発表後は座長の先生方をはじめ、多くの先生方からご質問を頂きました。評価の方法や治療後の反応の見方など、様々な意見を頂きました。また、口述・ポスターとも若い先生方の発表が多く、多数の演題発表を聞かせて頂き、非常に刺激を受けました。今後もより一層探究し、向上していきたいという気持ちが強まりました。今学会の会場となりました茨城県立医療大学は、他県の大学出身の私にとって、あまり馴染みのない大学であり、より新鮮な気持ちで学会に参加出来たと思います。今回の学会が、大盛況のうちに開催されたのは、運営スタッフの皆様方のご尽力によるものと思います。会場準備から進行、撤収作業と日々の業務でご多忙の中、本当に有難うございました。今回の学会を運営して下さいました皆様へ心より感謝申し上げます。

前田道夫（鹿島病院）



「リハビリテーションに活かす社会人基礎力」というテーマを掲げて実施された今回の学会、社会人としての自分に必要なもの、求められるものが見えた参加者が大勢いたのではないだろうか。

かくいう私自身も、新人や学生、他のスタッフと接する際に感情に任せた反応をとってしまっていたことがあったのではないかと、ネガティブな発言を無意識に使用して、可能性を狭めてしまったことがあったのではないかと、今までの行いについて振り返る機会となった。特別講演での山口和之先生の講義では、「単位数をこなすことだけにこだわっていないか、大事なものは期間の中で挙げた成果」「根拠のないものに予算はおりない」といった言葉があった。そういった言葉を聴くにつれて、私達が今後活動していく中で、しっかりとした成果や根拠を示していくことが求められるということを、改めて実感できた。

今回の学会では、発表の前後に座長や他の発表者の先生方と意見交換をする機会があり、自分の考えについて、こういった様々な意見交換ができるのも、学会ならではの良さだと再認識できた。座長の先生方は終始否定的な表現は用いず、建設的な意見交換ができ、同

じ社会人として、自分自身もこうありたいと感じた。

こういった意見交換できる場を通じて、自分だけという個人の問題ではなく、同じ職場、同じ地域、さらにはより広い範囲のセラピストがいっせいに前に踏み出し、考え抜き、チームで働くという意識を共有できる機会となれば良いと考える。

## 平成 23 年度忘年会

事務局 厚生部長 有田真己（介護老人保健施設ゆうゆう）

平成 23 年 1 月 27 日（日）に、ホテルマロウド筑波にて学会懇親会兼忘年会を開催いたしました。今年の忘年会は、新しい役員が編成され初めての忘年会となり 70 名を超える参加者で盛大に行われました。

まず、恒例のゲームでは「お題・お絵かきクイズ」と題し、グループに分かれてのチーム対抗を行いました。お題の例としては“マツコデラックス”“崖の上のポニョ”などで、予想以上にみなさんの絵が上手？笑いの絶えないクイズとなり皆さんも楽しんでいただけましたことと思います！！また、各チームに目玉景品をくじで当ててもらいましたが、さすが佐藤連盟会長、引きの強さを感じました（写真）。



会の最後に斉藤会長より、今後の茨城県理学療法士会の展望について、熱いメッセージが込められたお話しをしていただきました。これから必要となるものは、会員の皆様一人一人がつながり、また組織としてもつながり、地域での連携を密にできる“団結力”であることがひしひしと伝わってくる内容でした。各会員の皆様におかれましては、会長の熱いお言葉が響いたことと思います。わたくし個人的な意見として、これから何か大きな“変革時代への突入”を予感させられるお言葉でした。

厚生部と致しましては、来年の忘年会は、今年よりも多くの参加人数をお待ちしております。より皆様の“団結力”を高められるようなさまざまな楽しい企画も考えていこうと思っております。

是非、ご参加ください！！お待ちしております。

厚生部 一同

# December

12月3、4日

## 平成23年度 茨城県訪問リハビリテーション実務者研修会

(平成23年度全国訪問リハビリテーション研究会ステップアップ研修会 in 茨城)

会場：つくばセミナーハウス

内容：<12月3日(1日目)>

「訪問リハビリテーション総論」伊藤 隆夫 氏

(全国訪問リハビリテーション研究会・全国訪問リハビリテーション振興会会長)

「住環境とテクノエイド」小川 仙月 氏

(小川バリアフリープラン 福祉住環境コーディネーター)

「感染管理」宮川 尚美 氏

(茨城県立中央病院茨城地域がんセンター感染管理認定看護師)

「リスク管理」津田 修治 氏

(筑波大学臨床医学系総合診療科 医師)

「急変時の管理・対応」所 圭吾 氏

(茨城県理学療法士会 理学療法士)

「運営管理の実際」神 智亜希 氏

(筑波記念病院 言語聴覚士)

「在宅ケアシステム論」能本 守康 氏

(株式会社ケアファクトリー 代表)

<12月4日(2日目)>

「訪問リハビリテーションの対象と展開」有田 元英 氏

(有田内科整形リハビリクリニック 院長)

「面接技術」角田 直枝 氏

(茨城県立中央病院 看護局長)

「排泄ケア」牧野 美奈子 氏

(NPO 法人日本コンチネンス協会 排泄ケア専門相談員)

グループワーク討論・発表

全国各地での訪問リハビリテーションの充実を図るため、日本理学療法士協会、日本作業療法士協会、日本言語聴覚士協会の3協会と各都道府県士会が一体となり、その総論から現場での実践論まで、高名な講師陣を招いて宿泊研修を開催致しました。

作業療法士会・言語聴覚士会会長が開会式・閉会式に顔を揃え、3士会の共催事業として実りある研修会でした。毎年開催する予定で、次年度は茨城の訪問リハビリテーションを考える会ではなく本会が運営を担当することになります。

# January

1月7日～9日

理学療法士講習会〈応用編〉の開催（日本理学療法士協会委託事業）

茨城県立医療大学附属病院

テーマ：成人片麻痺の運動療法

講師：〈認知運動療法〉高知医療学院 宮本省三 先生

：〈生態心理学〉藤田保健衛生大学 富田昌夫 先生

：〈P N F〉東京都リハビリテーション病院 田村陽子 先生

参加者：35名

1月12日

平成23年度リハ3士会役員合同懇親会

特定事業局長 金子哲

毎年恒例で行っておりますリハ3士会役員合同懇親会が、今年度は本会担当で平成24年1月12日（木）に土浦市で行われました。本会からは斉藤会長、大曾根・沼尻副会長をはじめ合計9名の士会役員が参加しました。また、作業療法士会からは3名、言語聴覚士会からは7名の士会役員の先生方にご参加をいただきました。

今回は従来の懇親会だけでなく、前段として1時間程度ですが、毎年輪番で行っておりますリハ3士会合同研修会について、高等学校の先生方を対象としたリハビリテーション進路説明会や高校生のリハビリテーション（理学療法）見学会について、また理学療法士・作業療法士・言語聴覚士にも認められるようになりました痰の吸引に関する話題など、これからの茨城県におけるリハビリテーションの充実に向けた有意義な話し合いを行いました。また後半の懇親会では他士会の役員の先生方と顔の見える交流が図れ、今後の更なる連携強化に繋がる時間となりました。

1月24日

## 平成23年度 賛助会員等との意見交換会

つくばサイエンス・インフォメーションセンター

- 1 賛助会員 5社5名 (有限会社明星メディカルサプライ、株式会社ロングライフ、株式会社デベロ、テクノブレイス株式会社、株式会社幸和義肢研究所)
- 2 業務委託業者 2社3名 (株式会社志群システムズ、前田印刷株式会社筑波支店)
- 3 リハビリ機器業者 5社7名 (酒井医療株式会社千葉営業所、オージー技研株式会社千葉営業所、株式会社日本メディックス千葉営業所、インターリハ株式会社、伊藤超短波株式会社関東甲信越営業所)
- 4 茨城県理学療法士会 11名 (斉藤会長、大曽根副会長、沼尻副会長、大地理事、高橋理事、直井理事、中山部長、高尾部長、所部長、森田部長、中園部長)計26名

社会職能局 渉外部 直井洋明

今年度初めての試みとして、「賛助会員等との意見交換会」を開催しました。

この会を通して、賛助会員等から、士会へのご意見・ご要望を伺い、来年度以降の事業計画の参考とすることを目的としました。当日は、賛助会員等から12社15名の方の参加を頂きました。士会からは、斉藤会長、大曽根副会長、沼尻副会長など理事・部長11名が参加しました。



1月29日

## 平成23年度茨城県理学療法士関連三団体合同研修会

アール医療福祉専門学校

テーマ：平成24年度診療報酬・介護報酬改定の動向

講師：民主党・衆議院議員・理学療法士 山口和之 先生

(社団法人日本理学療法士協会常任理事／福島県理学療法士会会長)

参加者：71名

社会・職能局業務推進部長／茨城県理学療法士連盟事務局次長

国谷伸一（介護老人保健施設シルバービレッジ）

山口和之全国後援会茨城県事務担当の関口春美先生の進行のもと、今回の研修会が開催された。

研修会の内容は、来年度に行われる診療報酬・介護報酬同時改定についてである。まずは、介護保険制度改正の骨子の資料を基に質疑応答形式ですすめられた。通所リハビリテーションの短期集中リハビリテーション実施加算や個別リハビリテーション実施加算について、介護老人保健施設の在宅復帰率に関するサービス費について、訪問看護の報酬の見直しについてなど、具体的な加算の単位数や算定要件等について質問があがった。



次に、日本理学療法士協会の設立目的や理学療法士の職域について、また理学療法士の身分や処遇などを改善する目的で政治活動の重要性についてご講義頂いた。

最後に、山口和之全国後援会茨城県幹事の佐藤尚男先生の県後援会代表挨拶があった。

民主党・衆議院議員・理学療法士山口和之先生を支援する全国後援会組織として「山口和之全国サポータズクラブ」が設立された。後援会会長には元日本理学療法士協会会長の奈良勲先生が就任されている。

安心できる地域・社会の構築に向けて邁進する、山口和之先生を理学療法士・作業療法士・言語聴覚士、更には保健・医療・福祉関係者みんなで支えて行きましょう。

# February

2月4日

平成 23 年度第 2 回市民公開講座 つくば国際会議場

社会・職能局 公益事業推進部部員 本橋寛樹（石塚地方病院）  
部長 村田康成（石岡循環器科脳神経外科病院）

テーマ：「寝たきりにならないために一理学療法（士）ができること」

当日は御足下が寒い折にも関わらず、参加者 61 名（内シンポジスト、参加局員 14 名含む）の方々のご参加を頂きました。特別講演では、昨年の東日本大震災における理学療法（士）の活動や役割について、また、シンポジウムでは、各疾患の理学療法（士）を各シンポジストから一般市民の目線に立ち、わかりやすい画像や模型を用いながら説明がなされていました。質疑応答においては予定時間を越え多くの質問が挙げられ、閉会後にもシンポジストの皆様は全ての質問に丁寧に対応されていました。また、「講演内容が素晴らしいのでスライド資料を頂きたい、今回や過去の講演も録音やDVDにして販売して欲しい」といった問い合わせもあり、理学療法（士）が果たすべき役割の大きさを改めて痛感しました。市民からの声を直接ニーズとして掘り起こす機会として、また、多くの方に当講座を通じて理学療法（士）を更に身近に感じて頂けるよう今後も展開できればと思います。



2月17日

平成23年度 茨城県介護予防フォーラム 茨城県総合福祉会館

地域医療福祉推進部 本橋寛樹（石塚地方病院）

平成24年2月17日（金）に茨城県総合福祉会館で実施された茨城県介護予防フォーラムでは、本会からは齊藤会長がシンポジウム座長、千葉生涯学習部長がシンポジストとして登壇し、またシルバーリハビリ体操の実演では、介護予防体操補助ロボット「たいぞう」の紹介で茨城県立健康プラザの小貫会員が登壇いたしました。

このフォーラムは、一般県民・在宅介護関係職員・行政や関係団体の職員等幅広い対象層ですが、前日からの悪天候の影響で小雪が舞う中での平日にも関わらず大盛況で、300名を超えて立ち見の方が見られる程の参加がありました。内容も、基調講演からシンポジウム、シルバーリハビリ体操の実演と非常に密度の濃いものであるとともに、展示ではサイバーダイン社の「HAL」や、大和ハウス工業株式会社のアザラシ型癒しロボット「パロ」の出展があり、先進技術を身近で体験でき今後の介護予防の未来が興味深く感じられました。参加されている方々は介護予防に関心が高い参加者が多く、シルバーリハビリ体操や地域ボランティア活動を通じて、地域コミュニティの輪が広がっている事を実感する事が出来るとともに、県民の健康に関する関心の高さを強く感じました。県民のニーズに寄り添い、理学療法（士）ができることを、もっと広く県民の方々へ周知・還元できるように活動していかなければならないと痛感いたしました。



# March

3月13日

茨城県看護協会「まちの保健室」

茨城県理学療法士会「介護予防キャラバン」

北茨城市シルバーリハビリ指導士会での共同介護予防事業

北茨城市 市民ふれあいセンター

内容：体力測定・血圧測定・カウンセリング・理学療法相談・体操指導・目標設定など

参加者：43名（全体45名）

地域医療福祉推進部長 所圭吾（茨城県理学療法士会）

平成23年度第3回目にあたる、茨城県看護協会と本会の共同公益事業を開催致しました。今回は北茨城市シルバーリハビリ体操指導士会のご協力のもと、体操教室の参加者を対象に、体力測定およびカウンセリングの他、目標設定と自宅での運動指導も行い、より充実した内容で実施することができました。普段の参加者数を大幅に上回る方が参加され、それぞれの団体が協力しながら実施できたことは今後の連携にも貴重な時間となりました。同時に今回の盛況は、会員の皆様にもご協力を頂いて、県内理学療法士全体で支援を行っていく必要性も強く感じました。

また、ご協力頂きました茨城県看護協会様、茨城県立健康プラザ様、北茨城市シルバーリハビリ指導士会様、社会機能局各部員の先生方には紙面をお借りして感謝・御礼申し上げます。



3月25日

### 第37回定期総会 つくば国際大学

舛井禎久（いちほら病院）

2012年3月25日につくば国際大学で第37回茨城県理学療法士会定期総会が開催されました。茨城県理学療法士会正会員数1,386名、定足数693に対し、総会出席者数111名、委任状695名の計806名で平成24年度事業計画案、収支予算案について審議を行いました。

審議事項は、①平成24年度事業計画、②平成24年度収支予算、③平成24年度選挙管理委員改選④定款細則改訂、⑤社団法人茨城県理学療法士会・社団法人日本理学療法士協会名誉会員推薦、⑥公益社団法人移行に関する状況、⑦東日本大震災被災会員支援、⑧共同利用型訪問リハビリテーション設立の8項目であり、すべて承認されました。この中で、平成24年度選挙管理委員として、土浦協同病院の橋本貴幸先生、秋田哲先生、小手彰太先生の3名が選出され、社団法人茨城県理学療法士会・社団法人日本理学療法士協会名誉会員には岡安利夫先生の推薦が承認されました。

また、公益社団法人移行に関する説明や、東日本大震災からの復興特別区域における規制緩和の特例として認められた（共同利用型）訪問リハビリテーションステーションの設立について、斉藤秀之会長から基本方針の説明があり、地域の介護予防のため5年以内後の開設を目指しているとの事でありました。

今回の定期総会では、茨城県理学療法士会の今後の展望などについて会員の方々と活発な意見交換が行え、興味深く聴く事ができました。



## 平成 23 年度第 8・9 回研修会 つくば国際大学

テーマ：『育児介護休業の法律知識と職場での対応について』

講師：社会保険労務士 李怜香 先生

会報編集部 鈴木理絵（茨城西南医療センター病院）

平成 23 年度第 8 回研修会では、社会保険労務士の李怜香先生により、「育児介護休業の法律知識と職場での対応について」というテーマで講演をして頂き、実際に休業をとる際にどのような手続きをしたらよいか、どのような給付があるのかを詳しく知ることができました。

女性の場合、結婚・出産を機に退職をする方や、育児休暇をとることに對して不安を抱える人も多いかと思ひます。制度を利用しやすい環境になれば、育児と仕事を両立できる人が増え、継続して働けることで労働者のモチベーションを高めたり、理学療法士の成長につながられることがわかりました。また、家族の介護が必要になるということは誰もが経験する可能性があります。私たちが日々患者様のご家族と接して分るように、働きながら介護することが困難なケースは多々あります。今回の講義を聞き、制度を利用しやすい環境づくりや周囲のサポートはもちろん重要なことですが、必要になったときに迷わず利用できるように、労働者も知識をもっておくことが必要だと感じました。育児・介護と仕事を両立することに對して不安を抱える人も多いと思ひますが、使用者と労働者の両方のイメージを高めることができる研修会となりました。

テーマ：『臨床実習における教育学的アプローチ』

講師：慶応義塾大学病院 小林賢 先生

会報編集部 長谷川大悟（特別養護老人ホーム サンフラワーひたちなか）

第 9 回の研修テーマは『臨床実習における教育学的アプローチ』についての講演でした。研修会に参加し、本講義にて新たな教育知識や指導者としての考え方を見出すことができました。

講義の内容は大きく分けて、1. 学習者と指導者の理解、2. 学びの循環を作る、3. 指導者の教育スキル、4. これからの臨床実習という内容でした。

本講義の中で、臨床実習指導者の方針にバラつきがあったり、教育をすることに對して学んで来ていない理学療法士がほとんどであり、矛盾があると話していましたが私も同感でした。おおよそ 3 年以上の経験になると実習指導者を任される機会が増えてくると思ひます。しかし、臨床経験があるというだけで指導者を任される事となり、臨床家としては経験があっても教育者としては初心者の方がほとんどではないでしょうか？

今日では、養成校の増加や理学療法士の増加を受けて、これからますます臨床現場では指導者としての役割が大きくなってきます。同時に指導者の教育スキルを一定にするなど今後必要になってくるものと思ひます。

本研修では、これからの臨床実習スタイルなど新たな実習方法など実例を交えた話ではとても参考になり、今後における臨床像を踏まえ、臨床実習指導者としての役割や立場を見直すきっかけとなり、明日への臨床に大変有意義な研修となりました。



3月25日

### 特別講習会 つくば国際大学

テーマ：『平成24年度診療報酬・介護報酬改定の動向 ―理学療法の立場から―』

講師：筑波記念病院 齊藤秀之先生（社団法人日本理学療法士協会理事／茨城県理学療法士会会長）

参加者：121名

社会・職能局業務推進部長 国谷伸一（介護老人保健施設シルバービレッジ）

平成24年度の診療報酬・介護報酬同時改定に先駆けて本会会長の齊藤秀之先生にご講義頂いた。理学療法に係る診療報酬改定の要点は、亜急性期入院医療管理料の見直し、回復期リハビリテーション病棟入院料の新たな評価、早期リハビリテーションの評価、外来リハビリテーションの評価、訪問リハビリテーション中の急性増悪への対応、標準的算定日数超え運動器・脳血管リハビリテーションは原則次回改定まで、標準的算定日数の超過で状態の改善が判断されない場合の脳血管・運動器リハビリテーション評価の引き下げ、医療リハビリと介護リハビリの併用期間についてあげられた。次に、介護報酬改定は、居宅サービス関連として訪問リハビリ、通所介護、通所リハビリ、訪問看護、そして施設サービス関連として老健サービス費、訪問リハビリ（老健）算定要件の見直し等についてあげられた。

## その他の協力事業

第63回春季関東地区高校野球茨城大会への派遣（準決勝・決勝）

期 日：平成23年5月3日・4日

場 所：水戸市民球場

派 遣：中村 功氏、松本 正孝氏

第64回秋季関東地区高校野球茨城大会への派遣（準決勝・決勝）

期 日：平成23年10月3日・4日

場 所：日立市民球場

派 遣：金子 哲氏、古田 英二郎氏、松本 正孝氏

水戸養護学校への外部専門家（理学療法士）派遣事業

期 日：平成23年11月16日、12月14日

平成24年1月25日、2月15日、3月14日

会 場：水戸養護学校

派 遣：高橋 千晶氏

小児リハ評価ツール普及に関する事業

期 日：平成23年8月28日

場 所：茨城県立医療大学

参加者：146名（教育者側85名、医療者側61名：うち理学療法士31名）

担 当：局員9名

「茨城における小児の発達を支える地域リハビリテーションを考える会」への協力事業

・平成23年度総会・研修会

期 日：平成23年6月4日

場 所：筑波大学附属病院

推薦世話人：石川 公久氏（欠席）

・第7回世話人会

期 日：平成23年9月7日

場 所：筑波記念病院「ほうしゅん」

推薦世話人：石川 公久氏

・第8回世話人会

期 日：平成24年3月7日

場 所：筑波記念病院「ほうしゅん」

推薦世話人：石川 公久氏

**茨城における小児の発達を支える地域リハビリテーションを考える会  
総会及び研修会報告**

地域医療福祉推進部次長 石塚晴美（茨城西南医療センター病院）

6月4日に筑波大学にて総会及び研修会が行われました。参加者数は総会が51名、研修会が64名、参加職種は医師、看護師、特別支援教育に関わる教育関係者、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、義肢装具士、保育士、福祉関係者でした。研修会では、茨城西南医療センター病院の作業療法士 根本浩則氏より「就学前児童との関わりにおける教育・医療・福祉の連携について」をテーマに、実際に行われている地域での取り組みから作業療法士の関わり方についての講義があり、活発な意見交換がなされていました。

また、茨城県保健福祉厚生総務課副参事 橋本由美子氏からは小児リハ連携ツール「キッズリハ手帳」使用についての情報提供がありました。自身は今年度からの入会で初めての参加でしたが、小児の発達を支えるには様々な分野との協働が必要不可欠であることを再実感しました。

「茨城県回復期リハビリテーション病棟の会」への協力事業

・平成23年度総会・研修会

期 日：平成23年6月25日

場 所：茨城県立医療大学

推薦世話人：坂 淳氏（欠席）

**茨城県回復期リハビリテーション病棟の会総会及び研修会報告**

鹿寿江（結城病院）

6月25日に茨城県立医療大学で行われた、茨城県回復期リハビリテーション病棟の会の総会・研修会に参加させていただきました。今回のテーマは「維持期との連携」で、各施設で取り組んでいること、工夫していること、困っていることなどを研修会を通じて知ることができました。問題点として多く聞かれたことは回期・維持期間の情報共有の機会が少なく、またその方法も分からないということでした。

私は現在回復期病棟に携わっていますが、在宅や老健へ退院された患者様の情報は、自分が提供したリハビリの効果判定になると思います。回復期の理学療法士として、この課題を改善する為に地域連携パスの有効利用や、より分かりやすい経過報告書の作成を心がけたいと思います。

城里町社会福祉協議会地域ケア・地域リハビリテーション相互連携システム推進検討委員会への参加

第25回 期 日：平成23年8月24日 城里町常北保健福祉センター

第26回 10月25日 城里町城北保健福祉センター

「高次脳機能障害者の支援と連携の会」

・第1回世話人会

期 日：平成23年5月13日

場 所：茨城県立医療大学付属病院

推薦世話人：井上 克也氏

・設立総会・研修会

期 日：平成23年6月18日

場 所：茨城県立医療大学

推薦世話人：井上 克也氏

・第2回世話人会

期 日：平成23年12月17日

場 所：つくば国際会議場

推薦世話人：井上 克也氏（欠席）

**高次脳機能障害者の支援と連携の会設立総会報告**

本会推薦世話人 井上克也（鹿島病院）

5月13日高次脳機能障害者の支援と連携の会設立総会および第1回世話人会が行われました。また、6月18日には茨城県立医療大学にて設立記念講演会が開催されました。

県内で様々な支援システムの構築に向けての活動がありましたが、依然として関係機関・施設・立場の方々がお互いに有効な連携を模索しながらも、十分な機能が果たされていない現状があります。

高次脳機能障害者の支援と連携の会は、このような問題を解決する為に様々な関係機関・施設・立場の方々が一同に会して研修・講演・事例検討会などを通じ、交流を深め更なる支援システムの構築を目的として設立されました。このような会に県士会より推薦を受け世話人として活動の協力をさせていただく事となりました。これを機会に今後の高次脳機能障害者を取り巻く方々の連携が強固になるよう努めて参りたいと思いますのでご協力お願い致します。

茨城県立健康プラザ「介護予防体操相談支援者制度」への協力事業

期 間：平成23年4月1日から平成24年3月31日（1年間）

内 容：「介護予防体操相談支援業務」としてシルバーリハビリ体操3級指導士養成講習の受講及び研修（8回）、リハビリ体操指導3級指導士養成講習・神経講義受講、研修、講座補助、講義担当

活動日時：（研修）平成23年6月20日・27日・30日、7月4日・7日・14日、21日　：茨城県立健康プラザ

（シルバーリハビリ体操指導士3級養成事業 地域開催講師）

平成23年6月17日：守谷国際交流研修センター

6月21日：新利根公民館

7月15日：小美玉市玉里保健福祉センター

7月19日：美浦村老人福祉センター

9月30日：常陸太田市総合福祉会館

11月29日：下妻市下妻公民館

11月30日：太子町保健センター

平成24年2月16日：水戸市保健センター

2月21日：城里町常北保健福祉センター

派 遣：所 圭吾氏・渡邊 勸氏

### 「介護予防体操相談支援者」活動報告

地域医療福祉推進部長 所圭吾（茨城県理学療法士会）

茨城県立健康プラザが中心に実施しているシルバーリハビリ体操指導士養成事業に、本会から相談支援者として事業に協力して2年目になります。昨年までは1名でしたが、本年度からは2名を派遣し、「神経」講義の講師および「人の動きと運動の介助」のサポートを中心に行っています。8月までの活動状況は、下記のとおりです。

シルバーリハビリ体操指導士の地域での活動は大変活発で、指導士と住民、また住民同士のつながりが強く、また受講生の意識の高さを強く感じます。理学療法士として、より広く地域住民の健康・介護予防に携わっていくにはこうした活動により積極的に寄与していくことが重要であると切に感じております。また、この支援事業には茨城県看護協会からも相談支援者が派遣されております。より多くの関連団体が協力して地域医療・福祉の発展に関われるよう、これからもよりよい活動をしていきたいと思っております。

《介護予防体操相談支援者の活動を通して》

地域医療福祉推進部 渡邊勸（介護老人保健施設カーサ・ピアン城里）

今年度から、介護予防体操相談支援者として活動することになりました。指導士の養成講座は、各講座の次の回に、復習と筆記試験があり、何が不十分であったかレビューを行っています。講義の内容も、解剖学など充実した内容です。また実際に、1級指導士における市町村での活動の報告が行われ、地域活動を身近に感じてもらっています。

医療圏での介護予防事業は、マンネリ化や改変が地域で言われており、各医療機関でも試行錯誤しながら実施されています。このシルバーリハビリ体操指導士養成事業は、住民が住民を支援して介護予防に関わるものであり、地域の中に理学療法士等の専門職が関わっていく必要性が問われています。現在、理学療法士の世界でも介護予防の必要性は広がっているように思えますが、十分とは言えず、まだまだ医療リハビリに関心が強いように感じています。この活動を通し、介護予防の必要性に更に意識を高くもっていただき、新人教育等にも予防関連の内容が充実されることを期待します。

#### 河内町地域包括支援センターへの協力事業

- ・河内町1次予防教室「はっぴーらいふ教室」の開催

期 日：(打ち合わせ会議)平成23年4月27日、5月25日

(教室)平成23年6月13日～9月26日までの月曜日(全13回)

(同窓会)平成24年3月21日

場 所：河内町保健センター

内 容：各種測定・健康講話・集団指導・個別指導・教室終了後の支援

参加者：18名

派 遣：所 圭吾氏

- ・河内町2次予防教室「元気アップ・はつらつ教室」の開催

期 日：(打合せ会議)平成23年10月24日、10月31日

(保健センター教室)

平成23年11月7日～平成24年2月27日までの月曜日(全13回)

(金江津教室)

平成23年11月9日～平成24年3月7日までの水曜日(全13回)

場 所：河内町保健センター・つつみ会館

内 容：各種測定・健康講話・集団指導・個別指導等

参加者：31名

派 遣：所 圭吾氏

#### 河内町一般高齢者介護予防事業「はっぴーらいふ教室」の実施

地域医療福祉推進部長 所圭吾

本活動は、河内町地域包括支援センターから本会に、介護予防事業の協力依頼があり担当させていただいております。現在実施している一般高齢者介護予防事業および後期に実施される2次予防事業については、事業内容の企画立案から、実際の測定や指導までを包括支援センター職員と協働して、ほぼ全てを本会で担当しております。

各自治体が実施する健康や介護予防に関する事業や教室は、健康体育系の職種が関わっていたり、医療機関が受託して理学療法士が実施していたりと様々です。本来こうした事

業に理学療法士は欠かせない存在であり、事業自体の企画から本会が関わるのは大きな意義があります。今後の地域における理学療法士の活動のモデルの一つになるよう、精進したいと思います。

### 河内町 2 次予防事業「元気アップ・はつらつ教室」

#### 1 次予防「はっぴーらいふ教室」同窓会

地域医療福祉推進部長 所圭吾

平成 23 年度に開始された、河内町地域包括支援センターへの協力事業ですが、先日 1 年目を無事に終了致しました。2 次予防教室でも中心にしてきた「生きがい」「コミュニティ」など日常生活場面での意欲的行動、活動性の向上にはそれぞれ結果を残すことができましたと思います。最終回は、これまでの事業同様に参加者全員で復習会のあと、お茶会が盛大に行われました。

また、平成 23 年 9 月まで実施した 1 次予防教室の同窓会も開催し、教室終了後の近況報告と講演およびお茶会を実施しています。同窓会を非常に楽しみにされた方が多く、手作りおつまみをそれぞれ持参して、参加者数からは想像できないほどの盛況となりました。

今後も河内町のよりよい町づくりに貢献できるよう、活動していきたいと思います。

#### ㈱THF との協働介護予防事業の実施

- ・結城市二次予防事業「はつらつ教室」への協力

期 日：(打ち合わせ会議) 平成 23 年 5 月 25 日、9 月 7 日

(本会協力教室)

第 1 回：平成 23 年 6 月 1 日、7 月 27 日

第 2 回：平成 23 年 9 月 15 日、10 月 27 日、11 月 17 日

場 所：結城市健康増進センター

内 容：参加者の健康チェック・個別評価・個別運動プログラムの作成、講師等

派 遣：所 圭吾氏

#### ㈱THF との合同事業の実施報告（結城市 2 次予防事業）

地域医療福祉推進部長 所圭吾

㈱THF は筑波大学のベンチャー企業で企業フィットネスや自治体の介護予防事業を委託されています。今般、自治体の介護予防事業でも、個別評価や個別計画の重要性がうたわれ、理学療法士の関与が必要とされてきています。

今回、㈱THF が実施していた結城市の 2 次予防事業においても、参加者の初期・最終評価の実施と個別運動内容の提供に、理学療法士が介入することになりました。合同で事業展開をするのは初の試みで、課題も出ましたが、健康体育系分野の方との協業はこれからも重要な関係性になると思いますし、理学療法士の職域としても重要な位置づけになることと思います。秋には新しい結城市 2 次予防事業も始まる予定で、このようなケースも各

地域で増えてくることが予想されます。各地域の会員の皆様には、今後のご支援・ご協力をよろしくお願い申し上げます。

「茨城の訪問リハビリテーションを考える会」への協力事業

- 平成23年度総会・研修会

期 日：平成23年6月14日

会 場：イーアスつくば イーアスホール

推薦世話人：押野 泰史氏

- 第7回世話人会

期 日：平成23年7月27日

場 所：筑波記念病院「ほうしゅん」

推薦世話人：押野 泰史氏

- 第8回世話人会

期 日：平成24年3月14日

場 所：筑波記念病院「ほうしゅん」

推薦世話人：押野 泰史氏

#### 「茨城の訪問リハビリテーションを考える会」総会・事例検討会報告

本会推薦世話人 押野泰史（つくばセントラル病院）

6月14日（火）にイーアスつくば研修室で行われた茨城訪問リハの会の総会・事例検討会に、今回は、土会の推薦により世話人として参加させていただきました。今年度は役員改訂の時期ということで、新役員の紹介があり、義肢装具士や建築士など多職種からなる役員構成となりました。また、震災により延期となった訪問リハビリテーション実務者研修会の開催や全国訪問リハビリテーション研究会 第18回研究大会が来年度茨城で開催されるということでその説明がありました。

総会後の研修会では「在宅生活における当事者の心の変化を考える」というテーマで事例検討会を行いました。「機能面向上≠精神面向上」という説明から事例の提示がありました。機能面中心の目標設定になりやすいことは私自身経験がありますが、精神面の評価を行ったうえで、それも踏まえた目標設定・家族との関わりを行っていく重要性を再確認できました。

訪問理学療法（リハビリテーション）に関する研修・啓発事業

- 第2回訪問リハ・地域リーダー育成研修会への会員推薦

期 日：平成23年7月14日・15日

場 所：タイム24ビル（東京都江東区）

推薦：千葉 浩市氏、三浦 祐司氏

## 第2回訪問リハ・地域リーダー育成研修会報告

本会推薦者 千葉浩市（つくばセントラル病院）

7月14日（木）～15日（金）にタイム24で全国訪問リハビリテーション振興会主催により開催されました「第2回訪問リハ・地域リーダー育成研修会」に士会推薦のもと出席して参りました。その基調講演では、日本作業療法士協会会長中村春基先生より「訪問リハの現状と協会・振興会の取り組み」についてご講演を頂きました。介護保険におけるリハビリテーションの役割分担の必要性から、生活期には生活機能の再建・維持・向上の役割強化が求められ、それができる体制をつくるだけの充実した人材の確保、質の向上が課題であることを強調されていました。

今年度には既に介護サービスの基盤強化のための介護保険法の一部を改定する法律が成立され、小規模多機能型居宅介護と訪問看護など、複数の居宅サービスや地域密着型サービスを組合わせて提供する複合型事業所の創設が盛り込まれており、その中に訪問リハが位置づけられています。しかし、現状では十分にサービスが提供できず、今後は複合的機能を有する共同利用型訪問リハステーション（案）などその充実を図っていく必要があります。

振興会の取組みの一環である訪リハ実務者研修会は、昨年度44道府県で開催され、茨城県士会では震災の影響で中止となりました。今年度は12月3、4日に多職種の講師を招来したプログラムで、参加者交流も含め宿泊研修として実施されます。

(株)デベロ主催 訪問入浴レベルアップ研修講師派遣

期 日：平成23年11月5日

場 所：メッセピア（新潟県燕三条市）

社会・職能局 地域医療福祉推進部長 所圭吾（茨城県理学療法士会）

この度、賛助会員で訪問入浴車・浴槽を含め訪問入浴関連では全国で約7割ものシェアをもつ(株)デベロ様主催の、訪問入浴のレベルアップ研修に講師としてご協力させていただきました。訪問入浴に関する移動・移乗についての講義と実技、腰痛に関する研修を1日行っています。受講者の感想もとても良く、賛助会員との連携、理学療法士の持つ知識・技術を多方面で生かすこと、訪問入浴サービスの現場を知る意味でも、大きな試みでありました。今後もよりよいつながりを持ち、様々な分野・方々に還元できるように協力し合っていきたいと思っております。

## その他の活動

### 理事会・監査

第114回理事会・平成22年度期末監査	平成23年4月24日	会場	つくば国際会議場
第115回理事会	平成23年6月17日	会場	つくば国際会議場
第116回理事会	平成23年8月12日	会場	つくば国際会議場
第117回理事会・平成23年度中間監査	平成23年10月24日	会場	茨城県保健衛生会館
第118回理事会	平成23年12月2日	会場	茨城県県南生涯学習センター
第119回理事会	平成24年2月17日	会場	つくば国際会議場

### EBPT（根拠に基づく理学療法）関連事業

第6回茨城フットケア研究会での演題発表：

下村哲志氏（平成24年2月9日，つくば国際会議場）

リハビリ機器研究会専門家派遣 1名 田中直樹氏

第9回 リハビリ機器研究会会議（出席）

期日：平成23年7月5日 場所 有限会社サカエシステム

第10回 リハビリ機器研究会会議（出席）

期日：平成23年12月6日 場所 有限会社サカエシステム

「症例検討Ⅲ」DVD視聴研修会（9会場） 単位認定《新人教育プログラム》：「症例検討Ⅲ」

・「茨城西南医療センター病院」会場

期日：平成24年3月14日

参加者：10名

・「つくばセントラル病院」会場

期日：平成24年3月15日

参加者：20名

・「筑波記念病院」会場

期日：平成24年3月21日

参加者：16名

- ・「小山記念病院」会場  
期 日：平成24年3月21日  
参加者：9名
- ・「アール医療福祉専門学校」会場  
期 日：平成24年3月22日  
参加者：24名
- ・「協和中央病院」会場  
期 日：平成24年3月22日  
参加者：10名
- ・「筑波メディカルセンター病院」会場  
期 日：平成24年3月26日  
参加者：22名
- ・「(株)日立製作所日立総合病院」会場  
期 日：平成24年3月26日  
参加者：15名
- ・「水戸済生会総合病院」会場  
期 日：平成24年3月27日  
参加者：34名

#### 茨城県臨床実習連絡協議会

##### 第1回

期 日：平成23年7月1日  
場 所：アール医療福祉専門学校  
参加者：8名（学校教員4名 施設理学療法士4名）

##### 第2回

期 日：平成24年1月18日  
場 所：アール医療福祉専門学校  
参加者：8名（学校教員2名 施設理学療法士6名）

#### 理学療法（リハビリテーション）見学会の実施

対 象：茨城県内の高校生  
期 日：平成23年7月下旬～8月下旬（高校の夏季休暇期間）  
実施施設：茨城県理学療法士会会員の各施設  
参加者：38施設284名

## 2011年度 会員動向

庶務部 峯岸 忍

### 1.正会員・賛助会員

正会員数 1398名（2012年3月31日現在）

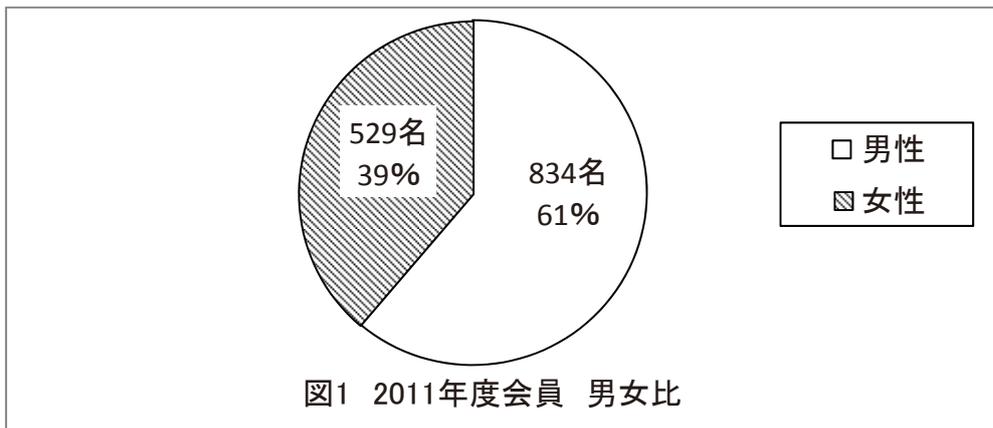
新入会 190名

転入 28名、転出 41名、県内異動 161名、退会 19名、休会 27名、復会 2名

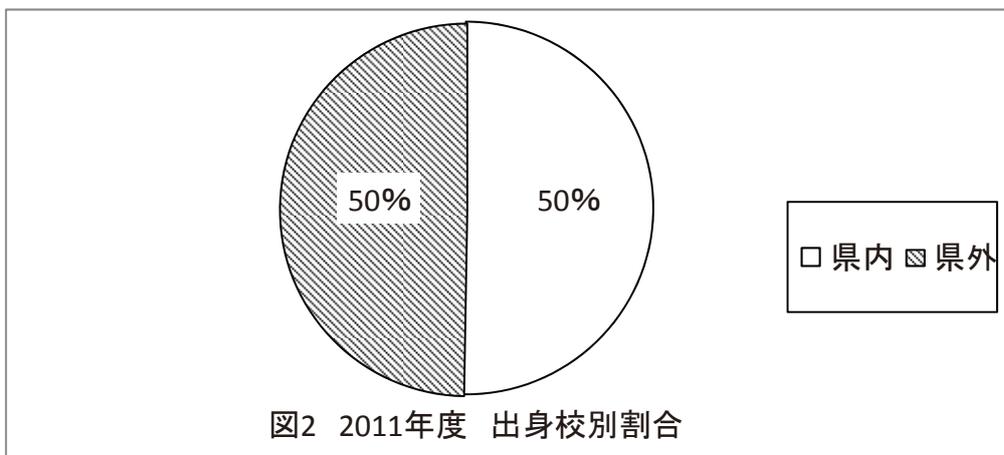
賛助会員 15社（A会員 2社、B会員 6社、C会員 7社）

### 2.会員データ

#### ①会員の男女比（図1）



#### ②新入会員の出身校（図2）



③医療圏別会員数（図3）

取手・竜ヶ崎：龍ヶ崎市、取手市、牛久市、稲敷市、守谷市、阿見町、河内町、利根町、美浦村

つくば：つくば市、つくばみらい市、常総市

水戸：水戸市、笠間市、小美玉市、茨城町、城里町、大洗町

土浦：土浦市、石岡市、かすみがうら市

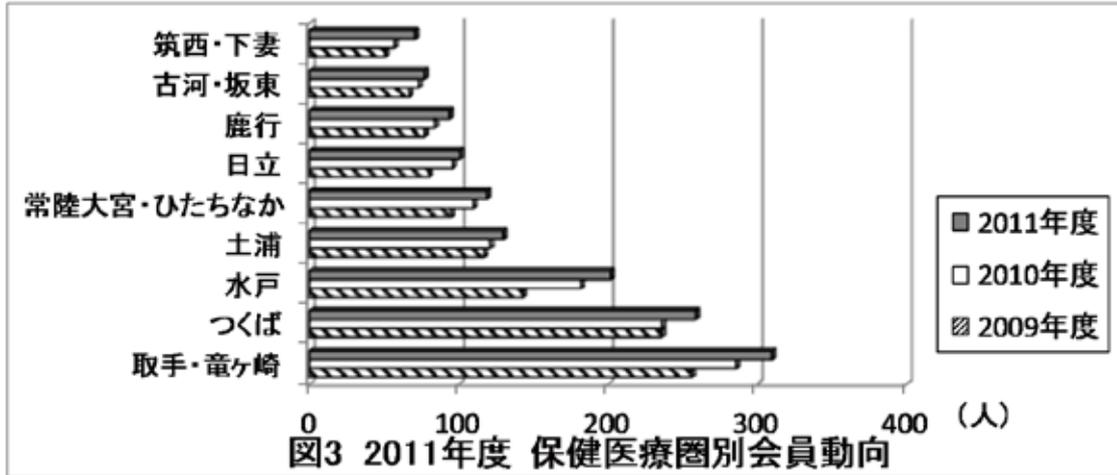
常陸大宮・ひたちなか：常陸太田市、常陸大宮市、ひたちなか市、那珂市、大子町、東海村

日立：日立市、高萩市、北茨城市

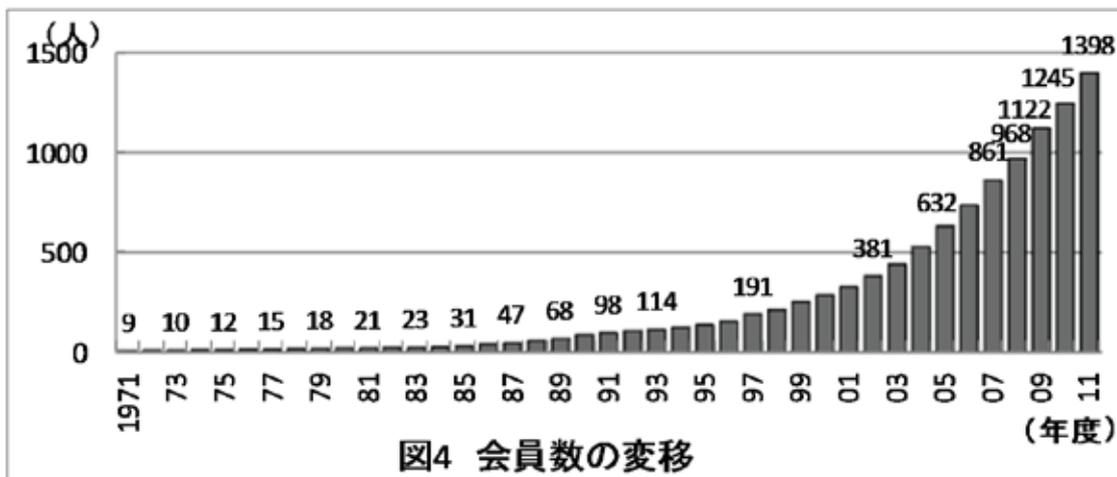
鹿行：鹿嶋市、鉾田市、神栖市、行方市、潮来市

古河・坂東：古河市、坂東市、五霞町、境町

筑西・下妻：筑西市、下妻市、結城市、桜川市、八千代町



④会員数の変移（図4）



## 平成23年度役員・局長・部長・委員長・代議員名簿

役職名	理事	氏名	所属
会長	○	斉藤 秀之	筑波記念病院
副会長(筆頭)	○	大曾根 賢一	筑波メディカルセンター病院
副会長	○	沼尻 一哉	茨城西南医療センター病院
事務局 局長	○	大曾根 賢一	筑波メディカルセンター病院
総務部 部長	○	大地 寛	(株)日立製作所日立総合病院
庶務部 部長		峯岸 忍	筑波メディカルセンター病院
財務部 部長		中山 陽介	茨城西南医療センター病院
厚生部 部長		有田 真己	介護老人保健施設ゆうゆう
就業支援部 部長		関口 春美	アール医療福祉専門学校
学術・教育局 局長	○	倉持 修	会田記念リハビリテーション病院
学会・研究部 部長		高尾 敏文	つくば国際大学
学術誌部 部長		鈴木 康文	つくば国際大学
生涯学習部 部長		千葉 浩市	つくばセントラル病院
卒前教育部 部長		浅野 信一	つくばセントラル病院
社会・職能局 局長	○	沼尻 一哉	茨城西南医療センター病院
公益事業推進部 部長		村田 康成	石岡循環器科脳神経外科病院
地域医療福祉推進部 部長		所 圭吾	茨城県理学療法士会
渉外部 部長	○	直井 洋明	土浦市役所
業務推進部 部長		國谷 伸一	介護老人保健施設シルバービレッジ
広報局 局長	○	高橋 晃弘	アール医療福祉専門学校
会報編集部 部長		森田 英隆	いちばら病院
情報システム部 部長		中園 徳生	牛尾病院
理学療法啓発部 部長		石塚 保士	水戸メディカルカレッジ
特定事業局 局長	○	金子 哲	水戸赤十字病院
定款組織検討委員会 委員長		浅川 育世	茨城県立医療大学
表彰委員会 委員長		前田 信道	JA とりで総合医療センター
業務改革委員会 委員長	○	大曾根 賢一	筑波メディカルセンター病院
選挙管理委員会 委員長		橋本 貴幸	総合病院土浦協同病院
監事		黒澤 保壽	石岡循環器科脳神経外科病院
監事		橋本 英之	橋本会計事務所
日本理学療法士協会代議員		佐藤 弘行	(株)日立製作所日立総合病院
日本理学療法士協会代議員	○	大曾根 賢一	筑波メディカルセンター病院
	○	金子 哲	水戸赤十字病院
	○	沼尻 一哉	茨城西南医療センター病院
		松井 弘子	取手北相馬保健医療センター医師会病院

## 茨城県下の理学療法士勤務先一覧

アール医療福祉専門学校	牛久市役所
会田記念リハビリテーション病院	うちほら慶友クリニック
青柳病院	大洗海岸病院
小豆畑病院	大洗コアクリニック
あへ整形外科	大久保病院
阿見町役場	大森医院
有田内科整形リハビリクリニック	岡田整形外科クリニック
安藤整形外科	小川南病院
石岡市医師会病院	小野瀬医院
石岡循環器科脳神経外科病院	介護老人福祉施設サンフラワーひたちなか
石岡第一病院	介護老人保健施設葵の園・常総
石島整形外科医院	介護老人保健施設葵の園神栖
石塚地方病院	介護老人保健施設あおぞら
いちほら病院	介護老人保健施設あたごナーシングビル
茨城県立あすなろの郷	介護老人保健施設アレーテル・つくば
茨城県立医療大学	介護老人保健施設いちご苑
茨城県立医療大学大学院	介護老人保健施設いなしきの郷
茨城県立医療大学附属病院	介護老人保健施設えがお
茨城県立健康プラザ	介護老人保健施設エバーグリーン
茨城県立こども福祉医療センター	介護老人保健施設おおあらい
茨城県立中央病院	介護老人保健施設大串の里
茨城県立リハビリテーションセンター	介護老人保健施設おはよう館
茨城西南医療センター病院	介護老人保健施設カーサ・ピアノしろさと
茨城北西総合リハビリテーションセンター	介護老人保健施設かすみがうら
岩上記念病院	介護老人保健施設くるみ館
うえの整形外科	介護老人保健施設ケアセンター阿見
上の原病院	介護老人保健施設けんちの苑水海道
植松整形外科耳鼻咽喉科	介護老人保健施設ごぎょうの里
植村整形外科クリニック	介護老人保健施設こすもびあ
牛尾病院	介護老人保健施設コミュニティケアセンター縦山
牛久愛和総合病院	介護老人保健施設さくら

介護老人保健施設さくらがわ	介護老人保健施設まくらがの郷
介護老人保健施設桜の郷祐寿苑	介護老人保健施設みがわ
介護老人保健施設さくら日立	介護老人保健施設もえぎ野
介護老人保健施設サングリーンやさと	介護老人保健施設ゆうゆう
介護老人保健施設サンフラワー東海	介護老人保健施設リヒトハウス北浦
介護老人保健施設 サンライズ湊	介護老人保健施設レイクヒルひぬま
介護老人保健施設シオン	介護老人保健施設鹿野苑
介護老人保健施設シニア健康センターしおさい	笠間市医師会訪問看護ステーションふきのとう
介護老人保健施設寿桂苑	鹿島アントラーズFC
介護老人保健施設シルバービレッジ	鹿島神宮前病院
介護老人保健施設スーペリア360	鹿嶋ハートクリニック
介護老人保健施設すばる	鹿島病院
介護老人保健施設すみれ	鹿島労災病院
介護老人保健施設青嵐荘ケア・アシスタンス	柏田診療所
介護老人保健施設セントラルゆうあい	勝田病院
介護老人保健施設健田	かねこ整形外科クリニック
介護老人保健施設田尻ヶ丘ヘルシーケア	(株)リハビリテーションクリエーターズ
介護老人保健施設つくばケアセンター	神栖済生会病院
介護老人保健施設つねすみ	からだはうす
介護老人保健施設豊浦	神立病院
介護老人保健施設なでしこ	菊池整形外科クリニック
介護老人保健施設ノア	北茨城市立総合病院
介護老人保健施設はぁもにか	きぬ医師会病院
介護老人保健施設はなみずき	協和中央病院
介護老人保健施設ひたちの森ハピネス	協和ヘルシーセンター
介護老人保健施設フェニックス那珂	久保田病院
介護老人保健施設プラタナスの丘	ケアサポート太田
介護老人保健施設フロンティア鉾田春の場所	恵愛小林クリニック
介護老人保健施設平成園	恵愛小林クリニック
介護老人保健施設ホワイトハウス千代田	けやきの郷
介護老人保健施設マカベシルバートピア	県西総合病院

県南病院	総和中央病院
県北医療センター高萩協同病院	高萩それいゆ病院
古河市福祉の森診療所	瀧病院
古河赤十字病院	立川記念病院
古河病院	通所リハビリテーションゆんたく
国立病院機構霞ヶ浦医療センター	塚田整形外科
国立病院機構水戸医療センター	筑波学園病院
湖南病院	筑波技術大学
小松整形外科医院	筑波記念病院
小山記念病院	つくば国際大学
済生会訪問看護ステーションかみす	つくば市障害者センター茎崎
桜ヶ丘クリニック	つくば市障害者センター桜
さくら整形外科クリニック	つくば市障害者センター豊里
さくら水戸クリニック	つくばセントラル病院
産業技術総合研究所	つくば双愛病院
山王台病院	筑波大学
山王病院	筑波大学附属病院
JA とりで総合医療センター	筑波病院
慈泉堂病院	筑波メディカルセンター訪問看護ステーションいしげ
嶋崎病院	筑波メディカルセンター訪問看護ふれあい
志村病院	筑波メディカルセンター病院
下條整形外科	土浦協同病院
重症心身障害児施設水方苑	土浦市役所
城西病院	テイケアさくらさくら
城南病院	テイケアひばり
城北病院	東海村立東海病院
身体障害者療護施設青嵐荘つくし園	東京医科大学茨城医療センター
青嵐荘特別養護老人ホーム	東前病院
聖麗メモリアル病院	特別養護老人ホーム 大野の郷
総合守谷第一病院	特別養護老人ホームもくせい
宗仁会病院	取手北相馬郡保健医療センター医師会病院

永井ひたちの森病院	北水会記念病院
なめがた地域総合病院	鉾田病院
西間木病院	ホスピタル板東
西山堂慶和病院	水海道さくら病院
西山堂病院	水戸協同病院
根本医院	水戸済生会総合病院
のかおい整形外科	水戸市保健センター
ハートフルふじしろ病院	水戸赤十字病院
白十字総合病院	水戸中央病院
はすみ敬愛病院	水戸ブレインハートセンター
秦病院	水戸メディカルカレッジ
東取手病院	湊整形外科・内科
常陸大宮済生会病院	美浦中央病院
日立製作所多賀総合病院	宮本病院
日立製作所日立総合病院	守谷慶友病院
日立製作所ひたちなか総合病院	八郷整形外科内科病院
ひたちの整形外科	やすらぎの丘温泉病院
ヒューマンサポート古河	山手医院
平間病院	友愛記念病院
広瀬医院	結城病院
ブレインピア南太田	(有)ともべ看護ケアセンター
プロスペクトガーデンひたちなか	ゆめみ野クリニック整形外科
ベストケア・デイサービスセンター日立	らいおんハートリハビリ温泉デイサービス川尻
訪問看護ステーション愛美園	龍ヶ崎済生会病院
訪問看護ステーショングリーンハウスみと	凧区フィジカルケアセンターつくば
訪問看護ステーションこづる	わたなべ整形外科
訪問看護ステーション虹	渡辺病院
訪問看護ステーションやまびこ	

以上 241 施設 (50 音順)

## 賛助会員一覧

社名	所在地	電話番号
<b>種別A</b>		
有限会社 明星メディカルサプライ	〒300-0812 茨城県土浦市下高津3-4-8	029-826-1371
帝人在宅医療株式会社茨城営業所	〒305-0034 茨城県つくば市小野崎260-1 ヒロサワつくばビル2F	029-855-7410
<b>種別B</b>		
株式会社 デベロ	〒310-0841 茨城県水戸市酒門町1744-2	029-247-2211
株式会社 幸和義肢研究所	〒300-4212 茨城県つくば市大白碓341-1	029-875-7627
テクノブレイス 株式会社	〒347-0063 埼玉県加須市久下1696-1	0480-66-1033
株式会社 ロングライフ	〒311-4164 茨城県水戸市谷津町細田1-8	029-257-2345
有限会社 宮田製作所	〒185-0023 東京都国分寺市西元町3-15-4	042-321-0684
<b>種別C</b>		
株式会社 茨城福祉サービス	〒315-0033 茨城県石岡市東光台4-9-3	0299-28-1829
有限会社 ヨシフク	〒310-0841 茨城県水戸市酒門町1437-3	029-248-5307
有限会社 芦川義肢製作所	〒124-0004 東京都葛飾区東堀切1-2-17	03-3603-5536
株式会社 三陽	〒310-0852 茨城県水戸市笠原町1510	029-243-1281
ロール・シチュール 株式会社	〒182-0033 東京都調布市上石原3-32-1	0424-84-0358
東亜義肢工業 株式会社	〒331-0062 埼玉県さいたま市西区土屋515	048-622-6200
医療法人社団青潤会 青柳病院	〒310-0817 茨城県水戸市柳町2-10-11	029-231-2341

賛助会員広告

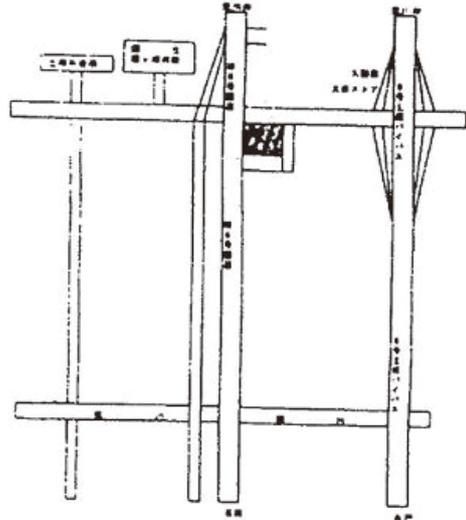
医療機器. 病棟備品. 福祉・介護用品

メイ セイ  
有限会社 明星メディカルサプライ

〒300-0812 土浦市下高津3-4-8

TEL (0298) **26-1371**

FAX (0298) **26-1372**



患者さんの  
Quality of Lifeの向上が  
テイジンの理念です。

**TEIJIN**  
Human Chemistry. Human Solutions

帝人ファーマ株式会社 帝人在宅医療株式会社 〒100-8585 東京都千代田区霞が関3丁目2番1号

PAD(LXX)ASX(TB)1201

# 介護予防支援車「さぼと」による 巡回型介護予防 アクティブスマイルプラン



巡回型だからいつでも何処でも充実した設備で  
介護予防教室の開催が可能です



筋トレマシンの持ち運びを可能にした介護予防支援車“さぼと”

**デベロ**  
(株)

本社 ☎ 310-0841 茨城県水戸市酒門町1744-2  
☎ 029-247-2211 代 ☎ 029-247-2214  
大阪支店 ☎ 540-0004 大阪市中央区玉造2-3-17 アルマ・ヒル301  
☎ 06-6945-1722 代 ☎ 06-6945-1720  
<http://www.develo-group.co.jp/>

第5回 TSUKUBA 福祉機器展 11月23日開催!



株式会社 幸和義肢研究所



TX 万博記念公園駅より車で3分

### ◆ 取扱品目 ◆

義肢・装具・座位保持装置・車いす・補聴器  
コンフォートシューズ・福祉用具レンタル

<http://www.kowagishi.com> [info@kowagishi.com](mailto:info@kowagishi.com)  
茨城県つくば市大白裕 341-1  
TEL 029(875)7627 FAX 029(875)7628



テクノブレイス株式会社

T E C H N O B R A C E



### ☆取扱品目☆

- ☎ 整形外科治療装具
- ☎ 整形靴・特殊靴
- ☎ リハビリテーション装具
- ☎ 義手・義足

一人一人に合わせて制作します。どうぞご要望をお聞かせください。  
連絡先

〒347-0063 埼玉県加須市久下1696-1  
TEL 0480(66)1033 FAX 0480(65)0070  
E-mail [info@technobrace.com](mailto:info@technobrace.com)

シルバーマーク認定業者  
福祉用具販売・レンタル・住宅改修  
**株式会社 ロングライフ**

**本社** 〒311-4164 茨城県水戸市谷津町細田 1-8  
TEL 029-257-2345 / FAX 029-257-2567

**那珂営業所** 〒311-0105 茨城県那珂市菅谷 5487-4  
TEL 029-295-7843 / FAX 029-295-0739

**土浦営業所** 〒300-0872 茨城県土浦市沖新田 40-5  
TEL 029-841-2422 / FAX 029-841-4404

**結城営業所** 〒307-0015 茨城県結城市鹿窪向原 1305-20  
TEL 0296-34-1033 / FAX 0296-34-1034

コルセット・義肢・義足・補装具・車椅子・松葉杖 製作

有限  
会社 **宮田製作所**

〒185-0023 東京都国分寺市西元町 3 - 15 - 4

TEL.042(321)0684番 FAX.042(321)0692番



## 快適介護のお手伝い

◎福祉用具レンタル・販売 ◎住宅改修 ◎ストーマ器具  
明るく清潔なショールームでゆっくりとご相談ください

### 本社ショールーム

〒315-0033 石岡市東光台4-9-3

TEL (0299)28-1829

FAX (0299)26-8001

●営業時間/AM9:00~PM5:00

●定休日/土曜日・日曜日・祝日

### 介護ショップ ひまわり

〒309-1705 笠間市東平2-1470-677

TEL (0296)78-0128

FAX (0296)77-0477

●営業時間/AM9:00~PM5:00

●定休日/日曜日・祝日



介護保険指定事業所番号 第0870500022 〒315-0033 石岡市東光台4-9-3

株式会社 茨城福祉サービス

TEL (0299)28-1829

FAX (0299)26-8001

介護用品・福祉機器 販売・レンタル

## 有限会社 ヨシフク

茨城県水戸市酒門町 1437-3

TEL 029-248-5307

FAX 029-248-0086

\*介護保険指定福祉用具貸与事業所

\*住宅リフォームも併せてお気軽にご相談下さい

## 義手・義足・コルセット・矯正器一般 有限会社

## 芦川義肢製作所

### 義肢装具士 芦川晋一郎

〒124-0004 東京都葛飾区東堀切1-2-17

TEL 03-3603-5536



人と職場のベストソリューション

株式会社

## 三陽

水戸(029)243-1281 福島本社(0245)34-3155

いわき (0246)27-7631

郡山 (0249)59-3662

会津 (0242)24-5211

取扱品目 医療機器・臨床検査機器・ME機器・分析機器

〈関連会社〉

ホルター心電図解析センター

水戸カルディオセンター株式会社

TEL029(241)1155

車椅子総合メーカー

# 株式会社 ロール・シチュール

本社・工場

〒182-0033 東京都調布市上石原3-32-1

TEL 0424-84-0300



TOUA-PO

## 東亜義肢工業株式会社

〒311-0062 埼玉県さいたま市西区土屋 515 TEL 048(622)6200 FAX 048(622)6662

HP <http://www.toua-po.com/> e-mail [info@toua-po.com](mailto:info@toua-po.com)

## 医療法人社団青潤会 青柳病院

内科・外科・消化器科・循環器科・整形外科・等

〒310-0817 茨城県水戸市柳町2-10-11

TEL 029-231-2341

FAX 029-231-2350

URL [www.aoyagi-hsp.com/](http://www.aoyagi-hsp.com/)



**発行日**：2012年7月31日

**発行人**：社団法人茨城県理学療法士会

**代表者**：斉藤 秀之

**編集者**：森田 英隆

**事務局**：筑波メディカルセンター病院リハビリテーション療法科内

所在地 〒305-8558 茨城県つくば市天久保 1-3-1

TEL 029-851-3511（病院代表）

FAX 020-4622-3304（本会専用）

送付先 〒305-0031 茨城県つくば市吾妻 3-8-10

志群システムズ 茨城県理学療法士会事務所

E-mail info@pt-ibaraki.jp

URL <http://www.pt-ibaraki.jp>

